

# TUNZA



for young people · by young people · about young people

日本語版

2009.Vol.3  
(通巻17号)

## 地球はあなたを必要としている！ Your planet needs YOU!



コペンハーゲン会議へのカウントダウン



ジョーズを救え!

多様なハーモニー



ゴミをお宝に

一緒に育てる





# TUNZA もくじ

～「TUNZA」とは、スワヒリ語で“愛をこめて大切にあつかう”という意味です～

## TUNZA

インターネット上でも見ることができます。

英語版→[www.ourplanet.com](http://www.ourplanet.com) および

[www.unep.org](http://www.unep.org)

日本語版→[www.ourplanet.jp](http://www.ourplanet.jp)

<英語版> Vol.7 No.1

United Nations Environment Programme (UNEP)

PO Box 30552, Nairobi, Kenya

Tel (254 20) 7621 234

Fax (254 20) 7623 927

E-mail: [unepubb@unep.org](mailto:unepubb@unep.org)

[www.unep.org](http://www.unep.org)

Director of Publication Satinder Bindra

Editor Geoffrey Lean

Special Contributor Wondwosen Asnake

Youth Editors Karen Eng, Joseph Lacey

Nairobi Coordinator Naomi Poulton

Head, UNEP's Children and Youth Unit Theodore Oben

Circulation Manager Manyahleshal Kebede

Design Edward Cooper, Ecuador

Production Banson

Front cover photo Robert vanWaarden

Printed in the United Kingdom

<日本語版> 通巻17号

編集兼発行人: 宮内 淳

編集・発行所: NPO法人地球友の会

東京都中央区東日本橋2-11-5 (〒103-0004)

電話03-3866-1307 FAX 03-3866-7541

翻訳者: ランダムハウス講談社

NPO法人地球友の会 大井上恒男

編集協力: 武田えり子

デザイン: Edward Cooper, Ecuador

表3写真: 白川由紀

制作: (株) セントラルプロフィックス

印刷・製本: (株) 久栄社

用紙提供: 三菱製紙(株)

協力: 東京都中央区

助成: 連合・愛のキャンパス

Printed in Japan

\* 「TUNZA」日本語版は、日本語を母国語とする人々のために国連環境計画(UNEP)に代わって出版するもので、翻訳の責任はNPO法人地球友の会にあります。

\* 本誌の内容は、必ずしもUNEPおよび編集者の見解や政策を反映するものではなく、公式な記録内容でもありません。また、本誌で採用されている名称ならびに記述は、いかなる国、領域、都市やその当局に関する、あるいはその国境や境界線に関するUNEPの見解を示すものでもありません。

\* 本誌の無断複写(コピー)は、著作権法上での例外を除き禁じられています。

\* 本誌は非売品です。

この日本語版は、FSC認証紙を使用し「大豆油インキ」を使い、ISO14001認証工場において「水なし印刷」で印刷しています。また、省資源化(フィルムレス)に繋がるCTPにより製版しています。



はじめに	3
コペンハーゲン会議へのカウントダウン	4
環境の祭典	4
ゴミをお宝に	6
地球1コ分の暮らし	6
一緒に育てる	8
TUNZAが答えよう	10
庭園シェルター	11
世界環境デーへの願い	12
多様なハーモニー	14
スポーツがもたらすチャンス	15
行動基地	16
安全第一	17
ジョーズを救え!	18
自然のままに	20
エネルギーの7不思議	22
自治体と環境/新座市(埼玉)	24
企業と環境/フジテレビ	26

UNEPは、ドイツに本社をおくヘルスケア・農業関連・素材科学の世界的企業バイエルと連携して、若者の環境意識を高め、子どもたちや青少年が環境問題に関心を持ってくれるよう活動しています。

UNEPとバイエルのパートナーシップ契約は2010年まで延長され、長年にわたってきた協力関係を拡大し、世界中の国々にその成功例を広げて、若者のための新しい企画を推

進していく基礎を築きます。それらのプロジェクトには以下のものがあります。

機関誌「TUNZA」; 国連子供環境ポスター原画コンテスト; UNEPとの共同によるバイエル青少年環境使節; UNEP・TUNZA国際青年/子供会議; アフリカ、アジア太平洋、ヨーロッパ、ラテンアメリカ、北アメリカ、西アジアにおける青年環境ネットワーク; アジア太平洋エコマインド・フォーラム; 東ヨーロッパでの写真コンテスト「エコロジー・イン・フォーカス」

UNEPは  
環境にやさしいやり方を、  
世界中で、そして同時に自分たち  
自身の行動の中で推進しています。  
英語版は100%再生紙を使用し、  
植物ベースのインクやその他  
環境に配慮した手法を採用しています。  
我々の方針は、流通にともなう  
二酸化炭素排出量を低減することです。



# クールな、 そしてもっと クールなやり方

COOL  
&  
COOLER



**👍** **かっこいい**：鍋の水を100℃——つまり沸点——に温めるには、凍える小部屋を21℃に暖めるより多くのエネルギーが必要だ。だから時間をかけずに深鍋1つで調理できる献立——シチュー、スープ、そして刻んだ材料の炒め物などは、エネルギーの節約になる。それはまた皿洗いも節約し、そのうえ皿洗いに使う水を温めるエネルギーを節約することにもつながる。

**👍👍** **もっとかっこいい**：食材を短時間だけゆでて火から下ろし、あとはそのまま残りの時間をゆでた水に浸けておけば、より多くのエネルギーを節約できる。そして、そうすることで風味も増す。どんなレシピかって？ たとえば中華風の鶏の丸ゆでだ。鍋の中の水に鶏をひたし、ふたをして沸騰させたのち、15分間とろ火で煮込む。火を止め、熱を逃さないようにふたをしたまま、鶏をゆでた水の中で1時間寝かせておく。串を刺してみても鶏から出る肉汁が透明になったら煮汁を抜き、それはスープ用にとっておく。鶏を切り分けてライスの上に乗せ、みじん切りにしたネギ、ショウガ、それにオイルのドレッシングをかけて食卓に出す。

**👍👍👍** **最高にかっこいい**：多くの食材——野菜、種、果物、ナッツ、そして穀類——は、生で食べるととても良い。栄養士も、そのほうがたいていの場合、より健康的だと言っている。そして食材を生で食べることで、家庭のエネルギー消費に大きな影響を及ぼすことができる。

**👍** **かっこいい**：地元の店でレジ袋を廃止するキャンペーンを始める。

**👍👍** **もっとかっこいい**：“キャロットモビング (Carrotmobbing=ニンジン集客運動)”。それって何だろう？ 良い商売のやり方に対する報酬 (鞭に対比する“ニンジン”)として、多くの人々を“モブ (=集客)”してあげようという新しいアイデアだ——たとえば、収益の一部を環境改善にあてると約束する店があれば、それを支持するために多くの人々がその店で買い物をする。最初の“キャロットモブ運動”は、2008年にサンフランシスコで起こった。環境活動家のBrent Schulkinが、その日の売り上げの22%をエネルギー効率改善に投資すると約束した食品雑貨店に、消費者たちが群がるように仕向けたのである。

# はじめに

EDITORIAL



**気**候変動に取り組むことは、奇妙な矛盾をはらんでいます。それはあまりにも大きな、そして計り知れない作業に思えるので、わたしたちが個人としてやるのが、どれだけ気候変動を抑える効果を持つのか見えにくいのです。しかも本当のところ、数億人という規模でカーボンフットプリント (=温室効果ガスが地球環境に与える影響を二酸化炭素 <CO<sub>2</sub>> に換算した指標) を減らすための基本的な行動を起こさなければ、これまで人類の文明をはぐみ繁栄をもたらしたこの気候を救う機会は、失われてしまいます。問題は——そういった膨大な人数の努力が必要であるがゆえに——ほかの誰かが行動を起こすまで、みな何もしない傾向に陥りやすいことです。しかし、それが災いのもとなのです。潘基文国連事務総長は、こう表現します。「われわれは危険な道を進んでいる。地球は温暖化しつつある。われわれは方向性を変えなければならないのだ」。

もちろん、各国政府はわたしたちがもっと簡単に正しいことができるように何らかの措置を導入し、わたしたちを悪習にばりつけるような曲がった施策——エネルギーに、あるいはエネルギーを多量に消費するやり方に助成金を出すような——を排除しなければなりません。各国政府は環境汚染に加担するためではなく、経済的にも環境的にもっと利益をあげるために、税制とその他の奨励金制度を一新すべきです。必要ならば、有害なやり方や製品を抑制するための規制を導入し、温室効果ガスの排出が確実に地球全体で急速かつ恒久的に減少し続けるような、拘束力のある目標を打ち立てなければなりません。そして何をおいても、12月にコペンハーゲンで開催される地球温暖化の危険回避のための極めて重要な気候変動交渉で、包括的な新しい協定に達しなければなりません。

しかし結局は、それはわたしたちの肩にかかっています。「変革を見たいなら自らがその変革者たれ」という古い格言をかみしめるのは、今をおいてありません。それはわたしたち自身が地球への影響を減らすこと、特にエネルギーの無駄づかいをやめることから始まります。他の人々を動員して行動を促し、あるいはキャンペーンにまで盛り上がるかもしれません。今回のTUNZAでは、その両方の例を取り上げます。わたしたちは、みなすべてが——それもリーダーたちだけでなく——気候変動と戦うためにUN (国連) と力を合わせなければなりません。

# コペンハーゲン会議へのカウントダウン

## Countdown to Copenhagen

2009年12月に、デンマークのコペンハーゲンで気候変動と戦う新しい協定のための交渉(=国連気候変動枠組条約第15回締約国会議)が最高潮に達する。われわれはTUNZAの読者に、その準備のためにやっていることを聞いた。

### Rose Maria Laden Nielsen(デンマーク):

「この会議——人類の活動内容を変える可能性がある——のホスト国をつとめることで、デンマークの人たちは大きな責任を担うことになります。しかし、わたしたちにはすでにその準備ができていて、わくわくするような雰囲気になっています。効率的な暖房や廃棄物利用発電システム、省エネに根ざした家庭や産業、世界有数の高い燃料税、そして——特に——わが国の象徴でもある風力タービンなどが、ここで世界の人々の目にとまるのです。しかし、石炭使用の発電所、ディーゼル原動機を使った公共輸送機関、増え続けるプライベートカーの所有、そして食肉の生産やその消費ぶりなども、同時に人々の目にふれることとなります。

コペンハーゲンは、世界中から押しかけてくる若者たちの受け入れ準備も整えています。今のところ、デンマーク政府の4つの省庁が、若者たちのイベントや行動声明などに備えていくつかのミーティングをとりまとめており、若者たちが計画していることの概要をつかみ、彼らが情報交換の機会や討論のためのネットワークおよびフォーラムを持てるよう手配しています。気候変動に関する青少年イニシアティブから48人の代表がすでに集まっていますが、その大部分はデンマーク人あるいはヨーロッパに拠点を置く若者たちです。

ヨーロッパ各地にある多くのグループはよくまとまっていて、政治家たちへの声明を準備したり、環境に関する情報が満載なイベントを計画したり、あるいは単に情報ネットワークを構築したりしています。たとえば、青年環境会議(Youth Climate Conferences=YCC)はヨーロッパ全土にわたり50のワークショップを開催中で、2万人の若者たちが参加しています。Nature & Youthは、学校の生徒たちを動員して国際青年環境運動に参加する枠組みを作りつつあります。これらはすべてコペンハーゲン会議をめざし、会議の始まる前の週末に行われる若者たちの声明やイベントを盛り上げる計画なのです。

わたしの希望は、この会議での合意が温室効果ガス排出の削減を強固にするだけでなく、生物多様性や人権を無視しないものとなることです。もし合意がこの会議では得られず長期にわたって結ばれるものなら、合意が得られるまでの間の持続可能性と環境面での正義のどちらも重要です。しかし、わたしは思い切った気候変動に関する協定が確実に結ばれるよう、わが国がベストを尽くすと信じています」

### Ely Katembo(コンゴ民主共和国):

「昨年、ポーランドのボズナニでの会議に青少年使節として参加してたびたび聞かれたのは、新しい協定を実現するために考慮すべき最も重要なことは何だと思っか、ということでした。わたしの答えはこうです。気候変動は貧しい国々に過度な影響を及ぼします。しかも直接その影響を受けるアフリカの人たちは、どうして、どのように気候変動が起こるのかわかりません。代わりに彼らは、厳しい干ばつ、飢え、そして内戦などを神のなせるわざにするのです。

わたしたちはブドゥマ族(Buduma)の人々に、チャド湖が干上がりつつある理由をどう説明したらよいのでしょうか? コンゴで森の住居を追われるバトゥワ族(Batwa)をどう慰めればよいのでしょうか? タンザニアのマサイ族(Masai)にたび重なる干ばつについて何と言えばよいでしょう? タンガニカ湖の漁師たちに漁獲量の減少について何を伝えればよいでしょう? 先進諸国は、途上国がそうした教育を広めるのをただちに助けなければなりません。同時に、クリーン・テクノロジーを伝授し、気候変動を緩和する対策をとり、人々が気候変動に適応するのを援助しなければなりません。

ボズナニでのサイドイベントにおけるわたしの質問に続いて、欧州連合やアフリカ諸国からの環境大臣たちが“持続可能な開発のための学校活動(1'Ecole agit pour le développement durable)”と称するプロジェクトの発足を宣言しました。これは若者たちがハイレベルな世

## 環境の祭典

## Environmental fiesta

Paulina Monforte Herrero

TUNZA青年アドバイザーのラテンアメリカ・カリブ海諸島代表

## 地

地球上の全生物多様性の60~70%の生息地となっているのは、世界192か国のうち、わずか12か国にすぎません。メキシコ——2009年6月5日の世界環境デー式典のホスト国をつとめる——は、そのリストの上位にあります。は虫類の多様性では第1位、ほ哺乳類では第2位、両生類と維管束植物では第4位、そして鳥類では第10位にあります。科学者たちの推定では、世界中の生物種の10%以上がこの国に生息しているとのこと。そのユニークな地形、多彩な気候、そして地質学的、生物学的、文化

S. Rocker/Still Pictures



RML Nielsen



Ely Katembo



ICYN Climate Solutions Project



界会議で交渉するのに必要な準備を行うものです。セネガルの教育・エネルギー・環境担当省庁は、自国で試験的なプロジェクトを発足させようとしており、それをヨーロッパ大陸中に広める方策を探る手伝いを喜んでするとのこと。

これは国際青年代表団 (International Youth Delegation) が、アフリカその他の途上国における若者たちに公的な

権限を与え、コペンハーゲン会議に向けていわゆる若者同士のパートナーシップの準備をさせる目的で行っていることの一例です」

### Ruchi Jain (インド):

「今年の1月、インドで若者たちが長期の“気候問題解決ロードツアー”——5週間にわたり3,500キロメートルを、太陽電池を搭載した電気自動車やその他の代替燃料車で旅する——をスタートさせました。わたしたちは15の都市を訪れ、気候変動対策につながる運動を展開し、旅の途中で見つけた画期的な対策——たとえばバイオガス、雨水の採取、乾燥ゴミのリサイクル——を動画に撮りました。またリーダーシップ教育を行ったり、若者たちが地元で行動を起こすような動機を与えたり、さらには世界的な政策に関するロビー活動を行ったりしました。

これはインドの若者たちの間で起こっていることの、ほんの一部にすぎません。あらゆる都市で人々に警鐘を鳴らす動きが見られます——気候問題に関するリーダーシップ・プログラムを実施するための大勢による小さな募金、自転車ラリー、環境コンサート、エコ・アートの祭典、環境職業に対する認識向上のためのワークショップ、そして“自覚しよう350キャンペーン”(350ppmは一部の主要な科学者によって大気中の二酸化炭素濃度レベルの安全な上限とされている)などがそれです。目的としているのは、コペンハーゲン会議に向けて秒読み段階に入っている現在、インドのすべての人々に気候問題とその解決法についての意識を高めてもらうことです。

インドには7億人の若者たちがいます。わたしたちは気候問題を自身の手で取り上げ、わたしたちが望む世界中での変化のために、立ち上がらなければなりません」

K Thomas/Still Pictures

的な歴史がそのような豊かな多様性の進化をはぐくんできたのです。

それでもなお、メキシコは持続可能な開発への道のりに多くの難題をかかえています。たとえば、世界有数の環境法規のシステムがありながら、その実行面ではまだ問題があります。地域あるいは連邦の法規で保護されているのは国土の10分の1以下で、その結果、生物多様性の損失が問題となっています。大都市では大気および水質汚染が深刻で、広範囲にわたる土地の劣化と貧困も同様のありさです。

わたしは、メキシコが今年の世界環境デーの国際的な式典を主催することを嬉しく思っています。この式典はメキシコにとって重要なものです。なぜなら、メキシコがスポットライトを浴びることで、この国の豊かな側面に光が当てられると同時に、国内の未解決な諸問題に注目が集まるからです。

環境天然資源大臣の発表では、子どもや若者たちが自らの意見を述べ、聞いてもらうための正式な公開討論会が設けられるそうです。この機会はあなたがたのも

のでもあります。どのように式典に貢献すればよいか、どんなアイデアでも経験でもいいですから、わたし(kaayuj@yahoo.com.mx)にも共有させて下さい。わたしたちは子どもや若者にとって強力な、そして意味のある参加となることを望んでいます。ただ世界環境デーを記念するだけでなく、コペンハーゲン会議に向けてわたしたちの存在意義への第一歩としたいのです。ありがとう... してもしあなた近くいたら、一緒に参加しに来て下さい。Serás bienvenido! (ようこそ!)

# ゴミをお宝に Trash to treasure

## ミツバチのホテル Bee hotel

ミツバチはかけがえのないサービスを提供してくれる。木、植物、そして花を受粉させるのだ。しかしミツバチは危機に瀕している。その理由には多くの説があり、たとえば携帯電話の電波、殺虫剤、野生の草花の減少、捕食動物、そして病害などがあげられる。多くの穀物や果物の受粉はミツバチに頼らざるをえないため、ミツバチの消失は世界的な食糧供給に大きな障害をもたらす可能性がある。

良い知らせは、われわれが生息場所を余分に提供することによって、ミツバチを助けることができるということだ。背の高い草の中で繁殖するマルハナバチを手助けしてやるのは簡単で、庭の片すみの草むらを刈らずに残しておきさえすればよい。マメコバチを応援するには、卵を産むことができる巣を作ってみよう。

1. 中が空洞になった茎や小枝を見つけるか、あるいは竹を使う。
2. プラスチック製の飲料ボトルの両端を切る。
3. ボトルの胴体にひもを通して輪を作り、取っ手にする。
4. 切った茎をボトルの中にぎっしり詰め込む。
5. 花や野菜畑のような食料源の近くの、南向きの保護された場所にぶら下げる。ミツバチは空洞の茎の中を卵で満たし、春になるとそれが孵化する。
6. 野生のマメコバチはめったに同じ場所で産卵を繰り返さないで、2年ごとにまわりの巣や茎を束ねたボトルの場所を変えてやる。



Karen Eng

## ヒップサック Hip sack

使い古したジーンズを捨てないで！ その代わりに今ついているポケットを利用して、丈夫なバッグを作ってみよう。

1. ジーンズをしっかりと平らに置いて、すべての端がそろっているのを確認し、両足部分を股下6センチの所でカットする。切り落とした足の部分は横に置いておく。
2. 残りの“ショーツ”の部分を取り上げ、裏返す。
3. 足の部分の切り口から3センチの所で折り返して縁を作り、アイロンをかける。
4. 足の部分の切り口の表と裏を合わせたまま、しっかりと下端を縫う。
5. ジーンズの切り落とした足の部分を利用して、ひもを作る。その縁から切り口まで両側の縫い目に沿ってはさみを入れる。両足の部分とも、これを同様に行う。
6. 2つの細長い縫い目部分の端を、ジーンズのウエストの部分に縫い付けて、2本のひもをそれぞれ両側に付ける。
7. ベルトやバッジを追加して、自分用にカスタマイズされたバッグに仕上げる。



Karen Eng

## 地球1コ分の暮らし One Planet Living



Marcus Lyon



**建**物は、世界中で他のどんなものよりも地球温暖化の原因となっている。たとえば、英国の二酸化炭素排出の総量の半分近くがそのせいだ。自動車の影響に左右される合衆国では、この比率はやや低く37%だが、それでも世界の二酸化炭素排出量の10%に当たる。

今や各国政府は、新規の建物は環境に配慮したものにすべきだと主張している。たとえば英国の新築住宅はすべて、2016年までにゼロ・カーボンにしなければならない。続いてすぐにその他の新しい建物が対象となる。しかし、一部の先駆的な環境保護団体は、真っ先にその目標の達成をねらった。

そのひとつがバイオリージョナル(BioRegional)だ。このNGO組織は「地球1コ分のコミュニティ(One Planet Communities)」を作ることに目標を掲げている。そのコンセプトは次の事実から来ている。共同創設者のPooran Desai氏の表現を借りると、「健康的な、幸せな生活を送るために、われわれは地球1個分の資源しか持っていない。しかし誰もが平均的なヨーロッパ人のように消費すれば、地球3個分が必要になってしまうのだ」。

バイオリージョナルは、ロンドン南部にベドゼッド(BedZED=化石燃料エネルギーゼロの開発ベッドタウン)と称する100世帯からなるコミュニティ——仕事場とコミュニティの設備も含めて——の開発に着手し、2002年に完成した。ここは今でも英国最大のエコ・ビレッジで、省エネ・ビル、再生可能なエネルギー生成装置、水のリサイ

この世界環境デーをきっかけに、価値がないと思われているものを使って、何か役に立つようなものを自分の手で作ってみませんか？  
ここで紹介するのは、あなたがたにその気を起こさせるいくつかのアイデア品です。お気に入りのアイデアについて、やり方に写真を添えてメールを送ってください。その中からベストなものを選んで、今後のTUNZA誌面で紹介していきます。

## 自転車パーキング Bike park

止めてある自転車が折り重なって倒れているのを見て、うんざりしていないだろうか？ここで紹介するきちんとした解決法を試してみしてほしい。1個の小さなパレット(写真参照)で4台——片側2台ずつ——の自転車を支えておくことができる。家庭、クラブ、あるいは学校にうってつけだ。

1. パレットを見つける。地元の商店もしくは倉庫などで捨ててある。
2. 中古のL字型の棚支柱を見つける。
3. パレットが倒れないように、棚支柱金具をネジで取り付ける。片側に2個、反対側に1個取り付けてしっかり安定させる。
4. 必要ならのこぎりを使って、自転車の車輪に合わせて枠に切り込みを入れ、仕切板の間のみぞの高さを広げる。
5. 仕切板の間に自転車の前輪を押し込むと、自転車パーキングのでき上がりだ。



Karen Eng

## びん 瓶の棚 Jar shelf

収納スペースを、古いガラス瓶を使ってもっと効率よく利用する。

1. 瓶のふた1個につきネジ2本を使って、棚板の下面に好きなだけふたを取り付ける。
2. 瓶に中味を入れ、ふたにねじ込む。



Karen Eng

クル、持続可能な交通機関——ロンドンで初めての自動車共同利用のためのカークラブも含む——や、地域の有機栽培食品の供給などが完備されている。この家庭で使う熱は国内平均より90%少なく、水の使用は半分ですむ。

ベッドゼッドに住むDesai氏は、すべてがうまく行っているわけではないと認める。たとえば木材を燃料とした暖房兼発電所は、うまく機能しなかった。しかし彼は付け加える。「ベッドゼッドから学んだ教訓は、世界中——南アフリカから中国、そしてポルトガルから合衆国——で繰り返られる『地球1コ分のコミュニティ』プロジェクトに伝えられるだろう」と。

「地球1コ分の暮らし(One Planet Living=OPL)」は現在、WWF(世界自然保護基金)とバイオリージョナルによって開発された持続可能性の10原則に基づいた国際的なイニシアティブだ。Desai氏によると「その目的は」、「人々が環境指向を選択し、そして生活の質を向上させるのを容易にするためだ」。その他のプロジェクトの支援もあって、ホームセンターのチェーン店B&Qは約2,000種類の持続可能な製品を市場に出し、デベロッパーや建設会社は、より環境指向の建築素材、製品、サービスなどを買えるようになった。

「環境指向の家は、だんだん手に入れやすくなってきている」とDesai氏は言う。「宅地開発会社が建設しようとしているコミュニティ——英国ブライトン市のOPL——では、屋上野菜庭園を含めて、初めて通常の建設費の枠内に納まるだろう」。

「しかし、持続可能な生活のためにベッドゼッドの空きを待つ必要はない」と、彼は締めくくる。「食物や住居のような基本的なニーズを満たしたあとは、何がわれわれを本当により幸せにしてくれるのか考える必要がある。隣人を信頼することか、あるいは最新の小物や靴を競って持つことだろうか？」

[www.oneplanetliving.org](http://www.oneplanetliving.org)



BioRegional

地球はあなたを必要としている!

# 一緒に育てる Growing together

2人の若い青年——住む土地も、文化も、そして経済面も大きく異なる——が同じ情熱を共有し、それを実行に移した。そうして、2人とも公共の土地に有機栽培のコミュニティ菜園を造った。ジェyson・ロズマルスキー(Jason Rozumalski)はケンブリッジ大学キングス・カレッジの学生だったが、フェローズ・ガーデンの端にある、150年ものあいだ手つかずだった小区画で、多くの熱心な大学院生たちと野菜を育ててきた。ネルソン・カマウ(Nelson Kamau)はナイロビ南部青年グループ(Nairobi South Youth Group)の会長だが、ケニアの首都のスラム街で入手できる食糧のニーズを満たす一助に、寄贈された土地の小区画を耕している。両者ともコミュニティの菜園の、そして自分たちの食糧を育てて食べることの利点を信じている。



J Rozumalski



N Kamau

あなたがたのコミュニティの菜園プロジェクトについて話して下さい。それはどのようにして始まったのですか？

ジェyson: 図書館で長時間を過ごすわたしには、ビタミンDが不足していました。ですから、屋外で過ごす時間が必要だったのです。しかし、わたしのおもな望みは、大学やパブ以外の所で学生たちがお互いに集まって過ごすスペースを造り出すことでした。わたしはキングス・カレッジ・ガーデン委員会に頼みこんで、優雅なフェローズ・ガーデンの中にスペースを提供してもらい、キングス・カレッジ大学院協会から種や道具代として200ポンド(約300ドル)を出してもらいました。その時点から始まったのが、ある程度の組織作り、何回もの園芸用品店への往復、そして長時間の耕作作業です。現在、わたしたちの菜園はたった30平方メートル未満ですが、大学院生たちによって共同で耕作され収穫を上げています。その後、わたしはキングス・カレッジを卒業しましたが、この土地は参加を望む学生たちのために、今でも持続して有機栽培の野菜を育てています。

ネルソン: ナイロビ南部青年グループは有機廃棄物を集めて仕分けし、堆肥作りをしてきました。わたしたちはこの堆肥を利用して有機栽培の作物を育て、低価格で販売することで、ゴミからお金と健康が生み出されると考えました。わたしたちのメンバーがこの地区で農業・厚生担当の役人たちとの会合に出席してからは、自分たちのコミュニティで最も弱い人たち——孤児やHIV／エイズ感染者——が新鮮な野菜を必要としていることも知りました。土地を提供してくれたわたしたちの両親のうち何人かと話し、わたしは種や道具を買うお金を貯めるために洗車を始めました。さらに大きく状況を動

かすために、わたしたちはゴミを利用することで食物や収入が生み出され、環境もクリーンになるというポジティブな面を示して、人々のゴミに対する考え方を変えようとしています。おもにケール(=アブラナ科の越年草で、キャベツなどの原種)を育てていますが、これはナイロビでは成長の早い重要な野菜です。

どんな難題や障害に直面しましたか？

ネルソン: ナイロビでは、大きな土地の一面はすぐには利用できません。それでわたしたちのプロジェクトでは、見つけられるどんな小さなスペースにでも野菜を育てるようにしています。そうすることで、人々に使っていない土地——前庭やそういったスペース——を提供する気になってもらうのです。水道水の不足も問題です。その上わたしたちは、法律上、都市の内部で農耕するライセンスも所得しなければなりません。これには時間とお金がかかります。

ジェyson: 最大の問題は、継続性です。学生は長期間菜園にとどまって、この特定のスペースで何が効果を発揮するかについての知識を得ることはできません。彼らはしばしばデスクやラボで仕事をしています。菜園は大事に育てる必要があるのですが、そのための時間がとれないのです。

周囲の人々は驚きましたか？ 支持してくれていますか？

ネルソン: 最初は困難でした。わたしたちのコミュニティの人々は、自分たちが他の活動のために利用しているスペースをあきらめようとはしませんでした。しかしコンセプトと利点を説明したあ

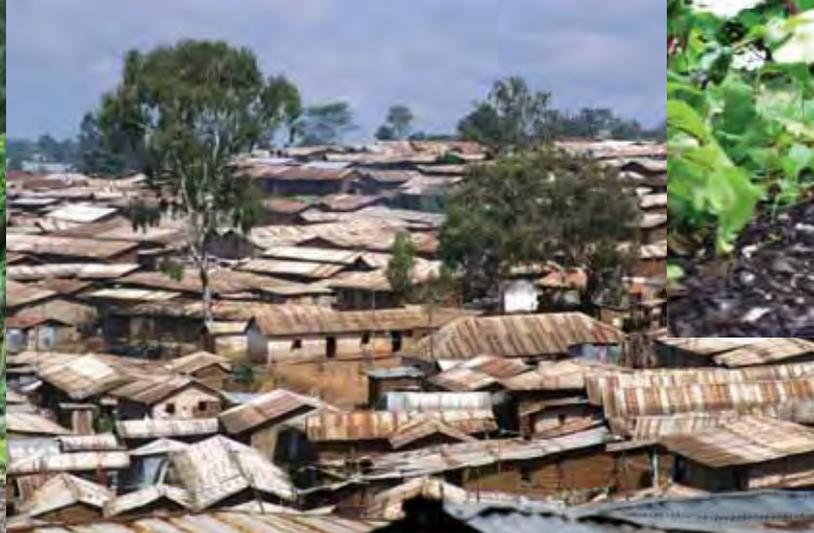
とでは、すぐに態度を変え、わたしたちを支持し始めました。

ジェyson: イギリスでは、16世紀のサフロン・ウォルデン(=エセックス州の小さな町)でのサフラン栽培に始まり、20世紀半ばのビクトリー・ガーデン(=大戦中の食糧不足を補うための家庭菜園)に至るまで、あるいは19世紀ロンドンのマッシュルーム・ケイブ(=キノコの洞くつ栽培)から、1970年代のウォーフ(WWOOF=Willing Workers on Organic Farms: 有機農場を手伝うボランティアを運営する非営利団体)・プログラムの創設に至るまで、いわゆる“代替農業”の文化が活発で長く根づいてきました。だから、わたしたちの菜園があたたかい支持を得られたのは驚くことではありません。

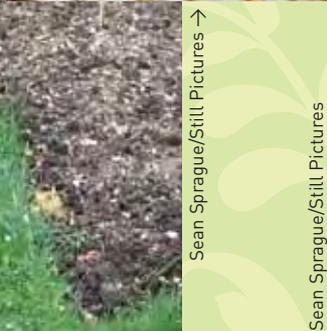
あなたがたが満たそうとしているコミュニティのニーズは、どのようなものですか？ それらは満たされましたか——あるいは、満たされようとしていますか？

ネルソン: わたしたちは孤児やHIV／エイズを病む人たちに向けて食糧のニーズを満たすことに焦点を当て、わたしたちが育てた野菜を提供しようとしています。これは未だ完全には満たされていませんが、あきらめずに実現しようと決めています。

ジェyson: わたしたちのニーズはただ一つ、コミュニティの人々をずっと幸せにすることです。とにかく他の人たちと一緒にいて、一体感を味わうのです。菜園は、人々がお互いにそこから学び、お互いに語り、遊び、そして食物を分かち合うスペースを提供してくれます。社会的なプロジェクトとして、コミュニティの菜園は人々がお互いのために時間と精力を費やすのに役立ちます。わたしとしては、参加者は必ずしもこのように考えなくてもよいと思



J Rozumalski



Sean Sprague/Still Pictures



Sean Sprague/Still Pictures

いますが、社会的な絆きずなは自然にそこで育つのです。自分たちの食糧を育てることが、どうして大切だと思うのですか？

ネルソン:自分たちの食糧を育てることで、その食材がどのように栽培されたのか——たとえば、どんな種類の肥料が使われたのか、あるいは、灌漑かんがいの水は良質だったのか——について心配することなく、自分の食べているものに信頼をおくことができます。これはナイロビでは重要な問題です。なぜなら、都市部に住む一部の農民は、野菜の栽培に下水の水を使うことがあるからです。

ジェイソン:自分たちの食糧を育てるのは素晴らしいことです。しかし消費者のために、地元の農園を支える方向に市場を動かすことはさらに重要です。地元の農園では、合成化学肥料や遺伝子組み換え物質の使用を最小限にとどめ、輸送も最短距離ですむような、地元で受け継がれてきた名産を含むさまざまな高品質の生産物を提供してくれます。人々が自分たちの食糧を供給してくれる地元の農園や農民を知った時に、社会的、経済的、環境的、そして個人的な利益が全部生まれてくるのです。

有機栽培で育てることが、あなたがたにとってなぜ重要なのですか？

ジェイソン:農民が有機栽培を実行すれば、食物は風味や栄養を増し、土壌はより豊かに複合度に富むようになり、農地からの流水も、よりきれいになります——そしてこれらすべては、人々や環境がより健康的になることを意味します。しかし、“有機”栽培は、食糧生産に関するすべての環境問題を

解決するわけではありません。たとえば食物の栽培や輸送に伴う炭素ガスの排出を止めることにはなりません。そして、世界中に輸出された有機栽培食品を買うことは——経済的、政治的な意味合いはあるものの——環境的な意義はほとんどありません。

ネルソン:わたしたちは健康面での効果があるから、有機栽培を奨励しているのです。わたしたちの野菜は、主として他の誰よりも健康的な食物を必要としている病人や、弱い立場にある人たちに食べてもらっています。

あなたがたの菜園は、どのようにして地域の環境を助け、地球全体にかかる重圧を減らしているのですか？

ジェイソン:環境への前向きな効果はまず、より健康的な土壌構造が——野菜の根系こんけい、コンポスト化、そして大気内窒素を固定する冬季作物などによって——作り出されることです。これらは順々に土壌中の栄養分、役に立つ微生物、そしてミミズ類の数を増加させます。その土地が芝生だった時期には合成肥料が使われていました。そこでわたしたちは、地下水の中に流れていく農業排水の清浄度を改善しました。また輸送、燃料消費、そして梱包くわんぱうなどの必要性も減らしていきました。

ネルソン:わたしたちの菜園は地域の生ゴミを減らし再利用することで、コミュニティの環境に貢献しています。わたしたちは、自分たちが集めた有機廃棄物と、農業プロジェクトで放棄された有機廃棄物の両方から、堆肥を作る場所を設けました。

自分たちのための野菜を育てるのは簡単ですか？何か秘訣ひけつはありますか？

ジェイソン:作物の世話をするやり方については、学ぶべき点が多くあります。病気や害虫、作物を植える時期と方法、土壌のpHレベル(=酸性値)、水の量、日照と必要なスペースなどです。しかし作物は、とにかく自分で育とうとするのです！一番良いのは、周囲にいる庭師や農民から学び、いろいろ異なる栽培技術についての記述を読むことです——その上で、自分たち自身の計画と実験を始めるのです。

ネルソン:この作業に集中し、準備をおこたらなければ、野菜を育てるのは難しいことはありません。こうしたプロジェクトは誰もがができることです。

あなたがたがめざす次のステップは、どんなことですか？

ネルソン:わたしたちの次のステップは、直面している難題を乗り越えることです。つまり、利用可能な土地や水、熟練した労働力などです。わたしたちは自分たちの菜園を発展させると公言しました。だから、この仕事は続けなければなりません。わたしたちの計画は、いったん試験的なプロジェクトが順調に軌道に乗れば、より多くの菜園をスタートさせることです。

ジェイソン:わたしの次のステップは、2009年の収穫期のあいだに、ニューヨーク州のアディロンダック山脈にあるアーティストたちの居住センターのために有機野菜を育てることです。わたしは約20人のアーティストのコミュニティに生産物を供給する責任があります。キングス・カレッジの菜園は、有能な人たちの手に任せておいてあります。わたしは、この菜園の将来が明るく豊かに見えると伝えることができ、とても幸せです！

# TUNZAが答えよう

# Q & A

**Q.**現在の不況が終わりを告げるまで、環境問題は経済問題の二の次になってしまうのでしょうか？

**A.**そんなことは絶対にない。迫り来る気候危機——現在の経済危機よりはるかに大きな影響があるはずだ——に対して、われわれは時間をむだにするわけにはいかない。われわれはそのための努力をおろそかにするのではなく、増やさねばならないのだ。同じように重要なのは、不況を前向きな何かに転換させられる可能性があることだ。将来のクリーンかつグリーンな経済の構築がそれだ。今こそ持続可能性を伴わない消費や開発から抜け出して、持続可能な天然資源の利用、環境保全、そしてクリーン・テクノロジーへの投資を始める時だ。これが新しい成長を生み出す最善の方法である。なぜならクリーン・テクノロジーとその実行は、汚染を伴うやり方に比べてより多くの雇用を創出し、技術革新の新しいサイクルに火をつける最大のチャンスとなるからだ。このような理由から、UNEPは世界的なグリーン・ニューディール政策を呼びかけ、このコンセプトはしだいに世界中の各国政府で取り上げられつつある。

**Q.**世界的な気候危機のせいで、人々はどのように苦しんでいますか？

**A.**それを挙げれば、われわれの生活のあらゆる面や、われわれがこの地球で生き延びるための手段そのものにも話が及んでしまうほど、長いリストになるだろう。最も一般に認められる影響としては、海面の上昇、極端な気象現象、洪水、干ばつ、そして森林火災だ。さ

らに収穫の減少、疫病の蔓延と再拡大、給水の遮断、内戦や国境を越えた紛争、人口の移動やコミュニティの移転など、いくつか挙げるだけでもこんなにある。しかし、人間の活動がこうした危機をもたらしたということは、エネルギー使用量削減の実行を始めとし、再生可能なテクノロジーの発展さえも成し得た人類の知恵を使ってこの危機を解決できるのもまた、人間の活動なのだ。

**Q.**気候変動と戦うために、わたしたちはこれからのクオリティ・オブ・ライフ(QOL=生活の質)を下げる必要がありますか？

**A.**その必要はまったくない。難題なのは、持続可能ではないライフスタイルに対処する——健康的な生活と物質的な消費過剰とのあいだの矛盾に取り組む——ことである。そして、これはしばしばQOLを改善することにもつながる。たとえば、車でドライブの代わりに公共交通機関、サイクリング、ウォーキングなどの代替手段を選んでみよう。特に車は、二酸化炭素を排出する以外にも不健康な大気汚染の原因となる。しかしサイクリングやウォーキングは、個人的なフィットネスやエネルギー増進を促し、職場での生産性の拡大、学校での成績向上、そしてより健康でより幸福な市民生活につながる。

**Q.**気候変動と戦う上でのプライオリティ(=優先事項)とは何ですか？ ——アダプテーション(=adaptation: 適応策)ですか、それともミティゲーション(=mitigation: 緩和策)ですか？

**A.**アダプテーションとミティゲーションはそれぞれ異なるものだが、同じように重要で、補完し合いながら目的に達する。アダプテーションは、すでに避けることができない気候変動の影響を調整し対応するのに焦点を当てるが、ミティゲーションは悪化するのを止めようと努力することである。今年12月、コペンハーゲンでの国際的な気候変動交渉において形づくられる合意は、両方のアプローチを進めるために強力かつ公正な総合的政策でなければならない。

**Q.**炭素クレジットのためのキャップ・アンド・トレード(=上限と取引)政策は、より貧しい企業や個人にとって、どのように利益になりますか？

**A.**キャップ・アンド・トレードのおもな目的は、企業が取引できる炭素排出量に一定の枠を与えることで、その排出量を制限しようというものだ。自分たちの枠以下に排出量を減らすことができた企業は、そのうち未使用の枠を、制限枠を越えてしまった企業に売ることができる。つまり、排出制限を達成した企業がお金を得る一方で、制限以上の汚染を引き起こした企業にとっては罰金となってしまう。個人に枠を設ける同様のシステムも提案されており、実施面での管理がはるかに複雑になるものの、きっと同じような効果が得られるだろう。どちらの場合でも利益は、よりもうけの少ない者ではなく、排出がより少ない者のところへ行く。通常、貧しい者は富める者より汚染量が少ないので、こうした個人的な枠組みは、より貧しい者の助けとなる傾向があるだろう。

**Q.**TUNZAやUNEPのイベント、さらには世界環境デー(WED)の活動やキャンペーンに参加するには、どのように申し込めばよいでしょうか？

**A.**UNEPは、若者たちを環境活動にいざなう最前線にある。次世代の環境意識を持った“地球を大切にあつかう”人々を育てるのだ。www.unep.org/tunzaにログオンして、青少年のための、青少年による、青少年についてのわくわくするようなプロジェクト、活動、そしてキャンペーンを発見してほしい。WEDのイベントに参加するためには、www.unep.org/wedにログオンすることだ。どのように参加できるかについての情報が豊富に載っている。

# 庭園 シェルター Garden shelters

植物園は平穏な場所に見えるかもしれない。しかし、そこではあなたが思っている以上のことが進行しているのだ。植物園自然保護国際機構 (BCGI: Botanic Gardens Conservation International) のサラ・オールドフィールド (Sara Oldfield) 事務局長は、そう説明する。



G Brit/VUNEP/Topham

BCGI

**地** 地球上のすべての生命は植物に依存しています。しかし、全植物種の約3分の1は危機に瀕しており、気候変動がその危機を増幅させています。どんな絶滅であろうとも、その理由を一つにしばってピンポイントで指摘するのは困難ですが、わたしたちの知る限りでは、気候変動があまりにも急速に起きているので、植物はそれに適応したり、移動をしたりする時間がないのです。たとえばハワイには植物のすばらしい多様性がありますが、それらはとりわけ低く広がる地形に適応しています。海面上昇が起こったら、そうした植物はどこへ行けばよいのでしょうか？

今のところは環境保護のためにも人間のためにも——薬用、食用、あるいは住居用として——役に立っていないように見える植物でさえ、気候に大きな変動が起きたり、わたしたちのニーズや知識が進化したらすれば、信じられないほど重要なものとなる可能性があります。米国の太平洋岸北西部の森林管理者は、タイハイヨウイチイを雑木のたぐいと考えて切り除いていましたが、重要な抗ガン薬としての成分を含んでいることが後に発見されました。植物の多様性を保全することは、将来に対する一種の保険ともいえるのです。

## 古代の種族

植物園では、ほぼ500年ものあいだ生物多様性をあつかってきました。わたしたちが今日知る限りでは、植物園は16世紀に薬草の研究と栽培のために始まりました。当時そこは、主として新しい穀物品種を試し

て、世界の他の地域へ紹介する場所でもありました。たとえばシンガポール植物園は、1800年代の末期にゴムの木をブラジルからマレーシアに伝えるのに大きな役割を果たしました。19世紀には探検家たちによってヨーロッパにもたらされたサボテン、ラン、ヤシを栽培するために、壮大なガラスの温室が建てられました。現在では植物園の数は約2,500——その半数は過去50年のあいだに開設された——に加え、そのうちの約800は植物保全と環境教育に直接関与しています。

植物園の科学者たちは継続して植物を収集し、世界中の植物の多様性を目録にしています。さらに彼らは、野生植物の種子を集め、たいいていの植物園に設けられているシード・バンク (= 種子銀行。高等植物の種子を遺伝子資源として保存する施設) に保管しています。一方、彼らはフィールドワーク (= 実地調査・野外活動) を通じて、わたしたちに植物の生息地や分布についても教えてくれます。だから、野生で植物が危機に瀕したり絶滅したりすれば、わたしたちはそれらを再生させるのに十分な情報と標本を手に入れているのです。地球の修復を手伝うことは、こうした潜在力を秘めた植物園ならではの最もわくわくする作業です。

植物園はまた、絶滅に瀕した植物を、その遺伝子としての素材が乏しい時ですら、瀬戸際から立ち直らせる方法を研究しています。10年ほど前にオーストラリアのキングス・パーク & 植物園の科学者たちが、40年前に絶滅したと考えられていた自生の灌木、

*Symonanthus bancroftii* (= ナス科の植物の一種) のたった1本の雄株の標本を見つけました。それから数年後、その植物の雌株を1本発見したのです。茎の組織をわずかに採取して、科学者たちはその植物のクローンを育て、人工授粉し、種子を——個体群の遺伝的な多様性を飛躍的に高めて——発生させました。それを野生環境に戻して、土着の昆虫が新しい植物に授粉し、今や再び繁殖のレベルにまで増えています。

## 栽培時のケア

もちろん、誰もがこの1本のオーストラリアの灌木を心配しているわけではありませんが、人々は植物を気にかけるものです。小さい子どもたちがマスタード & クレス (= カラシナとタガラシの若葉のサラダ) を好むように、種から育てた植物に愛着を抱くものです。そして都市部では、いわゆるゲリラ・ガーデニング——放置された公共スペースでの菜園——が流行になっています。植物について学び育てることになった多くの人たちは、子ども時代の興味からスタートしています。サボテンを栽培したり、地元の森を探索したり、あるいは自分たちの食物を育てたりしていたのです。中でも菜園を維持することは、自分でできる最もグリーンな活動のひとつです。この興味を持続させ、育てることが、まさに重要なのです。なぜなら、植物をこれからもずっと生存させるためには、わたしたちを含めて、できる限り多くの人たちの努力を必要とするからです。そしてそれこそが、植物園ができる仕事なのです。

[www.bgci.org](http://www.bgci.org) をチェックして、あなたの地域の植物園を見つけて下さい。

6月5日の**世界環境デー**を迎えるにあたって、**TUNZA**は世界中の**科学者**、**思想家**、**環境活動家**たちに、**2009年の若者たちへの願い**を述べてもらった。以下は本誌が受け取ったメッセージである。

現在を含めて最近の世代のリーダーたちは、環境の保護に大きく失敗し、あなたがたを失望させています。今、何が本当に大切なのかを監視し管理することで、あなたがた自身が自然遺産の保護者になる機会をつかむべきです。Carpe diem (今を生きましょう)!

ジャクリーヌ・マックグレード  
(Jacqueline McGlade)、  
欧州環境庁 (EEA) 長官



EEA

UN.org

われわれ人類は地球の限界を押し広げよう、もしくは押しのけようとしています。地球は必死に、われわれを必要としているのです。世界の若者たちに対するわたしの願いは、あなたがたが勇気、責任、リーダーシップ、そして想像力豊かな工夫を行動で示すことです。そうすることが、われわれが直面している現実の、そして緊急の環境危機すべてに対する無頓着さへの対抗手段なのです。あなたがたの声を聞かせて下さい、そして行動で変化を起こして下さい。

アッヘム・シュタイナー (Achim Steiner)、国連環境計画 (UNEP) 事務局長



GFN

人類の資源枯渇と生態系搾取は、今や地球が持ちこたえられる限界を超えています。われわれの最大のチャレンジ——自分たちの環境の持ちえる資源の中で生活すること——はまた、われわれに最大の機会を与えてくれます。地球1個分の資源にふさわしい暮らし方を学ぶことは、人間の精神とエンジニアリングの面で最善を尽くす必要があるということであり、はるかに安定した平和な地球社会を約束します。わたしは、われわれ皆がそれに成功することを望みます。なぜなら、われわれが打ち勝たなければ、誰もが敗北することになるからです。

マティース・ワケナゲル (Mathis Wackernagel)、グローバル・フットプリント・ネットワーク (GFN) 代表



2009年は、われわれの世界に新しい進路を指し示す年になるはずです。各国が自分たちの経済を立て直して、コペンハーゲンでの世界的な気候対策協定を打ち出すことになれば、次世代に繁栄をもたらすような世界経済への基盤が築かれるチャンスが生まれます。わたしの願いは、われわれがこのチャンスを見逃さない知性を持ち、このチャンスを自分たちのものにする勇気を持つことです。

ジェームス・P・リープ (James P. Leape)、  
WWF (世界自然保護基金) インターナショナル事務局長

WWF-Canon/E Okic



WWF/C Kaiser

若者たち——すべての年齢の——へのわたしの願いは、毎日を環境デーとすることです。すなわち、われわれ全員が自然の掬と調和から学び、伝統文化の知恵と再び通じ合い、為すことすべてに責任と勇気をもって行動し、低炭素方式のライフスタイルや、グリーンで充実した暮らしを選択するよう努めるのです。これが、地球温暖化、生物種の損失、生態系の衰退、そして社会的な不公平がこれ以上進行するのを防ぐのです。

アショク・コースラ (Ashok Khosla)、国際自然保護連合 (IUCN) 会長、デベロップメント・オルタネイティブズ代表、インド



Yale

われわれの世界の新しい世代は、社会正義、環境保護、そして真の民主主義のための改革をリードしなければなりません。さもなければ、将来は迎える価値のないものとなるかもしれません。わたしはこのような厳しい表現は好みませんが、こうした問題と40年も付き合ったあとでは、これが結論と言わざるを得ません。

ガス・スペス (Gus Speth)、  
エール大学森林・環境学部長

A Hoffmann



わたしの願いは、人類が急速な環境被害の厳しい現実にも早く目覚めることです。リーダーたちは否定的な態度を改め、断固として最大限の献身を尽くし、目前の難題に取り組みねばなりません。その兆候は、もはや疑問をさしはさむ余地もありません。人類は、自然界が機能を失えば繁栄していくことはできません。

そしてわれわれは、次の世代を待つ時間がないのです。われわれは今こそ、行動に移らなければなりません。

アンドレ・ホフマン (André Hoffmann)、  
環境奉仕活動家



R Hume/Experience Life

2009年に向けてのわたしの願いは、合衆国が環境汚染の面ではなく、その解決面で世界のリーダーとなることです。有意義で、かつ家族を支えられる仕事を渴望している数百万の人たちに、グリーンカラー・ジョブ(=環境関連の雇用)を作り出すことで、それは可能になります。太陽電池パネルの設置、建物が浪費するエネルギーをより削減させるための改良、そして風力発電所の建設などを通じて、われわれは2つの最大の問題である、経済の落ち込みと生態系の破壊に取り組むことができます。

ヴァン・ジョーンズ(Van Jones)、グリーン・フォー・オール代表



H WIZ/MWE-Carroll

今年の世界経済フォーラムで、世界のリーダーたちが経済危機について討議した際に、温家宝首相は中国のことわざを引用しました。「木から落ちた時に、歩くことを学ぶ」と。その通り、とわたしは思いました。

ただしこれは、地面に落ちた時に足を折らなければの話ですが! あらゆる年齢層や文化にわたって世界の社会の急速な脱炭素化に従事しなければ、ただこのリスクを負うだけです。わたしの希望と願い、それは化石燃料のない世界に向かって大規模な動員をすること——それはもはや政治家たちに、これ以上ためらいの余地を与えない改革なのです。

クロード・マーティン(Claude Martin)、スイス国際サステナビリティ・イノベーション評議会(ISIS)



JGI

森林、特に熱帯雨林の破壊は、気候変動の原因となる温室効果ガスの20%近くを生み出します。そして、多くの森の生物種を絶滅のふちに追いやります。若者たちは、気候変動の議論の場において大きな存在となります。世界のリーダーたちが新しい気候変動協定を作り出そうとしているこの時に、世界中の若者たちが熱帯雨林の破壊をきっちりと減速させる強力な条項を協定に加えるよう、声を大にして意見してくれることを望みます。

ジェーン・グドール(Jane Goodall)、国連平和大使およびジェーン・グドール・インスティテュート(JGI)創設者



W McKibben

わたしが若者たちに願うのは、政治情勢を変えるプロジェクトの手伝いをしてもらいたいということです。2009年10月24日、www.350.org(=気候危機を解決する国際的な運動)に参加するわれわれは、すべての大陸の若者たちと協力して、リーダーたちが今こそ地球温暖化に向けて行動しなければならないことを意味する言葉「350」(=大気中では350ppmの二酸化炭素濃度が限界)を広めます。われわれは高地のヒマラヤ山脈から、海中のグレートバリアリーフに至るまで、ラリーを計画しています——そしてあなたがたは自分の都市で、町で、村で、その手伝いができます。われわれと一緒に、若者がこの十分に大きな問題に変化を起こす手助けをして下さい。

ビル・マッキベン(Bill McKibben)、www.350.org



DSF

人類の大部分、特に先進工業諸国の人々は、今や大都市に住んでいます。そこでは経済と政治が最優先事項だと、簡単に考えがちになります。自然が、そして網のように広がる多様な生物種が、われわれにとって最も必要不可欠なもの——きれいな空気、水、食糧、エネルギー——の源だということを忘れていました。地球はわれわれの真の母親なのです。

デイヴィッド・スズキ(David Suzuki)、環境保護活動家および生物学者



IUCN

2009年は、環境の最前線にいくつかの希望をもたらす年です。コペンハーゲンで世界のリーダーたちは、何らかの勇気、決断、展望を示す機会に遭遇します。気候変動についての彼らの決断は、富める者と貧しい者のあいだで、そしてさまざまな世代間で、必要とされる団結を反映したものでなければなりません。『種の起源』の出版から150年経った今、ついにわたしたちは心ない自然の破壊者ではなく、自然の一部としての存在らしくふるまえるようになったことを確認しましょう。

ジュリア・マートン＝ルフェーブル(Julia Marton-Lefevre)、国際自然保護連合(IUCN)事務局長



BAS

わたしは、あらゆる人たちがありのままに認められるような世界を望みます。大事にされ、あらゆる点で——人種、肌の色、宗教、あるいは身体、知性、精神の能力などに関係なく——平等に。そしてわれわれすべてが、同様の敬意を払うに値する地球の住人であると実感することを。

ニック・オーエンズ(Nick Owens)、英南極調査所(BAS)所長



ITSD

ロバート・ワトソン(Robert Watson)、英国環境・食料・農村地域省の主席科学顧問

# 多様なハーモニー Diverse harmony

それは単純だが、調和のとれたアイデアで始まった。ロンドンのミュージシャン、ジェイミー・カトー(Jamie Catto)とダンカン・ブリッジマン(Duncan Bridgeman)は、世界中の音楽をつむぎ合わせる——ひとつの音楽を多様な音楽に融合させる——ことに決めた。

彼らは7年ものあいだ、5大陸にわたり50カ所を旅して回った。しばしば野外の息をのむ景観の中、スタジオ代わりのラップトップ型パソコンとデジタルビデオカメラをたずさえてのことだ。彼らは、世界で最も著名なアーティスト——たとえば、バーバ・マール、リラ・ダウンズ、アーシャー・ボースレー、マイケル・スタイク、ウム・サンガレ、そしてマホテラ・クイーンズなど——や、ロシア連邦トゥバ共和国の喉歌(=ホーメイと呼ばれる伝統音楽)の歌い手、中国のラッパー、そしてガボン共和国のピグミー音楽(=アフリカの先住民に伝わるポリフォニー)奏者のような、あまり知られていない多くの民族音楽家を記録にとどめた。ミュージシャンたちはみな、自分の演奏より前に録音された音楽を聴き、このオリジナルトラックに即興で演奏を重ねていった。2人はま

た、思想家や作家——ノーム・チョムスキー、ラム・ダス、ディーパック・チョブラ、アニータ・ロディック、そしてカート・ヴォネガットなどを含む——を探し出し、欲望、愛、死といった普遍的なテーマに関する彼らの洞察をその音楽に織り込んだ。

結果は2つのフィルムにまとめられた。そのひとつ『1 Giant Leap』は2003年のグラミー賞2部門にノミネートされ、もうひとつの『What About Me?』は2008年のレッド・ロック・フィルムフェスティバルでベスト・ドキュメンタリー賞を獲得した。これらの音楽、想像力、そしてアイデアのタペストリー——観る者に、人類がひとつの家族であるという調和のとれた可能性を感じさせる——は、すべての人たちがどのように同じ恐怖に悩まされ、一方で同じ希望を共有しているかという、心を刺激する証明となったのだ。

TUNZAは『What About Me?』の上映で世界ツアー中のジェイミーとダンカンに接触し、新しい景色に出会うこと、自然の中で音楽をつくること、そして変化を起こすための芸術の力について、じっくり質問する機会を得た。

Photos: 1 Giant Leap



自然の世界について、あなたがたが最も驚いたことは何ですか？

ダンカン: わたしは今まで砂漠に行ったことがなく、熱帯雨林の奥地にも行ったことがありませんでした。ところが、世界の熱帯全域をめぐる道のりで、昆虫と鳥の鳴き声が奏でるオーケストラを毎晩聴いたのです。

ジェイミー: わたしがつくづく感心したのは、至る所で、特にアフリカで、地球そのものの地平線が見られたことです。自然を経験するということは、癒されるということです。わたしたちは、きれいな水や肥沃な土壌のためだけに地球を必要としているわけではありません。わたしたちそのものが地球であるからこそ、それが必要なのです——事実、わたしたちの身体の70%は水で

きています。わたしは環境破壊をより深刻な問題の兆候とみなします。自然に敬意を払わないのは、わたしたちが自分自身に敬意を払わないからです。

アイデアを伝えたり、人々により大きな理解をもたらしたりする音楽の力とは、どんなものでしょう？

ジェイミー: 音楽は人々を結びつけます。一回のギグ(=小さな場所でのライブ演奏)では、人生のあらゆる道を歩いている人たちが集まり、そこでひとつの経験を共有します——そして、この一体感こそが、満足感への手がかりなのです。

ダンカン: 音楽は唯一の共通言語です。わたしたちの音楽の形式がどんなに異なっているかを

考えたとしても、そこにあるのはただリズムとハーモニーだけなのです。いったん誰かとリズムを合わせ、あるいは調子を合わせたなら、言葉を超えたレベルに達します。世界中でわたしたちがお互いの音楽を聴くのは、こういうわけです。音楽は個人の間での態度や関係を根本的に変えてしまいます。

あなたがたはまったく何も持たない人たちと、芸術的にコラボレートしました。そのことで、ものの見方は変わりましたか？ また、より少ないもので“作り出してみたい”という気持ちになりましたか？

ジェイミー: とにかくわたしは、フェラーリを乗り回すような金持ちだったことはありません。それ

『What About Me?』のプレビューを含む情報は、[www.whataboutme.tv](http://www.whataboutme.tv)へ。

は矛盾をはらんでいます。なぜなら、本当に貧しい人々は行きすぎた願望からくる不安にとりつかれたりしないので、謙虚ともいえるほどの寛容さを持っています。と同時に、彼らはきれいな水を飲めず、その点ではOKとは言えません。ダンカン:中国の瀘沽湖では、人々は何も持っていません。しかしわたしは誰もがあんなに幸せなようすをしているのをほかでは見たことがありません。ロサンゼルスでは、誰もが選択の自由に悩み困惑しています。問題は、“持てる者”と“持たざる者”とのあいだに極端な距離があることです。しかし、わたしが成功のために必要と考えていたものの大部分は、基本的な幸福にとって本当に重要なものではないことがわかりました。

電源のない所でどうやって録音することができたのですか？ 太陽電池を利用したのでしょうか？  
ダンカン:12ボルトの充電式バッテリーを使用しました。これでわたしたちのミニスタジオを5時間ほど稼働させることができます。消費エネルギーを抑えるためには、消費エネルギーに気をつけながら、モニター画面を閉じておくことが大切です。こうして、わたしたちはどんな場所でも——森の中でも、砂漠でも——録音に取り組むことができ、音楽の特徴に大きな違いを生み出すことができました。きっとたくさんの鳥のさえずり、こおろぎの鳴き声、自動車の音などを耳にすることができるでしょう。将来、太陽電池パネルを利用することになればありがたいですが、今のところ、わたしたちには余分なものです。

出会った人たちから、人間の本质について何を学びましたか？ 気候変動のような地球の危機を乗り越える能力についてはどうですか？  
ダンカン:わたしが学んだのは、世界の問題は“そこにいる”莫大な数の人たちについてではなく、まず、あなたとわたしについてであるということです。わたしたちはみな、最初に自分の責任をとらねばなりません。  
ジェイミー:本来、人々は一緒になって、協力し、築き上げ、そしてともに勝利するのが大好きです。ただ時々、自分で立ち上がって一員に加われれば、明日にでも物事を実際に変えられるを思い出す必要があるのです。

何か創造的なことを試みようとしている若者たち、あるいは芸術を創るより、むしろ木を植えたほうがよいと考える人たちに、言いたいことはありませんか？  
ダンカン:実行あるのみ!です。どんなに小さなものであっても、変化を起こすことができると人々に気づかせることが、あなたの仕事だということです。植樹に関する映画を作るのもよし、また歌を書くのもよいでしょう。たとえばあなたの試みが、たった二人の人間にしか届かなかったとしても、あなたは変化を起こしたのです。  
ジェイミー:悪いニュースを使って人々を説得しようとするのはやめましょう。楽しませ、刺激を与え、おもしろがらせてください。喜びにこそ、人々を変える力があるのです。



MISA

## スポーツがもたらすチャンス A SPORTING CHANCE

モーリス・オデラ (Maurice Odera)

スポーツが若者たちに、環境について教える手段として活用されるようになってから、ちょうど22年経った今、マサーレ青少年スポーツ協会 (MYSA: Mathare Youth Sports Association) は、2010年FIFAワールドカップ本大会への出場権を争っているケニア代表サッカーチームに5人のメンバーを送り込んだ。そして現在のケニア・プレミアリーグ所属チームであるマサーレ・ユース (Mathare Youth) を生み出した。

そのすべてが始まったのは、1987年にカナダのボブ・マンロー (Bob Munroe) が、ナイロビの市街地に不規則に広がるスラム地区マサーレで、道具も設備も持たずして、幼い子どもたちがサッカーに興じているのを見た時だった。彼はMYSAを設立し、5つの少年チームをつくって、きちんとしたサッカー用具一を個人的に提供した。

しかし、それは彼にとって常にスポーツクラブ以上の存在だった。このスラム地区は内部を川が走り流れ、ケニアの首都で最も汚染され、環境的に劣化した地域のひとつである。巨大なゴミ捨て場として使われ、市議会もゴミの収集や処理に手をつけようとしない。マンローは若者たちに環境保全の大切さを教えることで、彼らに自信をつけてもらおうとしたのである。

MYSAサッカーリーグでは、ただゲームに勝つことだけでなく、コミュニティ活動への貢献によっても、チームや個人にポイントが与えられる。清掃作業をやりとげたチームには、リーグ順位表に6ポイントが与えられ、個々の選手たちはそれぞれ2ポイントを獲得する。それによって各自がリーダーシップ賞を勝ち取るチャンスが増え、チームとしてもリーグ予選を通過してプレーオフ進出に近づくことになる。リーダーシップ・トレーニング・プログラムの効果で、若いスポーツマンたちは、仲間の若者たちに環境を大切にしよう働きかけるコミュニティのリーダーへと変身する。

MYSA——男子チームと女子チーム両方がある——はまた、HIV/AIDSに関する意識向上キャンペーンや、行方不明の子どもたちを家族のもとに返す運動に参加しており、最近では「Kids with Disabilities Project (=障害を持つ子どものためのプロジェクト)」にも取り組んでいる。すべてのプログラムは若者たちによる主導で、このコミュニティに属し、スラム地区の若者たちの能力を高める意図で計画されている。その結果、サッカーにおけるずば抜けた可能性——15歳のMuindi Musembiや13歳のJulita Awuorのような——が見いだされ、組織や規律が整備され、モチベーションと、小額ではあるが収入さえも得ることができるようになった。

33歳のJoseph Jageroは、MYSA内での地位を上げてきたひとりだが、今ではMYSAの「環境プロジェクト」マネージャーである。「ゴミ捨て場をきれいに清掃して、2000年にサッカー競技場に変えたのを覚えている」と彼は言う。「競技場は今日でも使われており、そこで行われるゲームを見るたびに感情が沸きあがる」。そして「わたしの歩んできた道は、もし少年時代にMYSAでトレーニングを受けていなかったら、きっと違ったものになっていただろう」と付け加える。

彼はさらに続ける。「“すばらしいゲーム”には人々を結びつけ、そこに限りなきずなを作り出す力がある。われわれの望みは、人生がわれわれ全員に投げかけたこの難題に立ち向かうために、仲間を力づけられるようになることだ。MYSAはこれまでも、そしてこれからも、多くの人たち、多くの若者たちの希望のみなもとであり続ける」。

# 行動基地 Action stations

世界中からの4人の若者たちが、自らの草の根運動が効果をあげた例について報告する。

## Chan Sze Meun、マレーシア

わたしたちはみな3R——節約 (Reduce)、再利用 (Reuse)、リサイクル (Recycle)——のスローガンを知っています。しかしこれがじゅうぶんでないとしたらどうしますか？ わたしが大学生だった時、廃棄物マネジメント学の教授が新しいコンセプト、5Rを紹介してくれました。それは従来の3Rに再考 (Rethink)と拒否 (Refuse)を加えたものです。この追加のRは、ほとんどの環境問題の根本原因、つまり人間の考え方対応するものです。ゴミ管理の解決法がもっとないかと探す代わりに、そもそもどうすればゴミを出すのを止められるかを、わたしたちはなぜ考えようとしないのでしょ

うでしょうか？  
わたしたちの世代は消費主義にとりつかれています。わたしたちの欲望は、必要を超えるようになってしまいました。満たされることのない欲望に合わせて、ゴミにされるだけのために、ものが製造されているのです。これらのものは、より品質の低いものへとリサイクルされるのかもしれませんが、最終的には必ずゴミに変わります。わたしたちがものを買うという判断が、作り出されるゴミの量を決めるのです。

この5Rのコンセプトは、どこから問題が始まるかというわたしたちの考え方を変えることができます。もしわたしたちが何かを買う前にもう一度考えるとすれば、自分自身にこう聞いてみるのです。「これは欲しいものなのか、それとも必要なものなのか？」「これを頻繁に使うだろうか？」「何か他の手段を使って手に入れることができないだろうか？」「友人から借りたり、もしくはレンタルできないだろうか？」と。こうした質問を自分に浴びせることは、必要のないものを拒否する手助けになります。

今ではわたしは卒業して、クアラルンプールの環境コンサルタント事務所でのこのコンセプトを推進するために働いています。マレーシアの会社員はふだん、屋台、コーヒーショップ、あるいはカフェエリアで食べものを買います。包みのポリスチレンの容器やビニール袋は、たった一度使っただけで捨てられます。2~3人の同僚が何度も使える自分用の容器を持参しているのにヒントを得て、わたしは職場のみんなに同じようにするよう促すキャンペーンを始めました。たとえわたしの事務所だけしかこのやり方——わたしたちの行動を考え直し、ポリスチレン容器の使用を拒否する——を実行しなくても、毎日のポリスチレンのゴミの大きな削減が引き起こされるのです。

そしてこれは、5Rの考え方の一例です。たったひとりでもこの考え方を受け入れることで、大きな変化を起こすことができますし、単純に2度考えるだけで地球の環境を救うためにたくさんのできるのです。

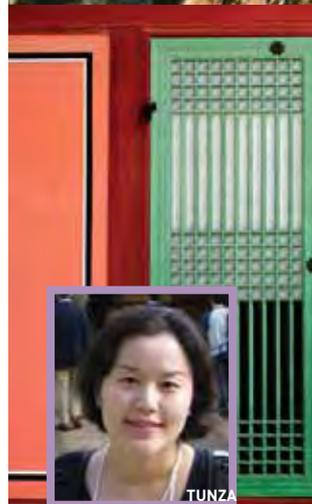
## Livia Maria dos Santos、ブラジル

わたしのバックグラウンドは、ビジネスとマネジメントにわたっていますが、大学時代の最終リサーチプロジェクトで焦点を合わせたのが、ブラジルの森林保全に役立つ財政面の手段——Eco-ICMS (=エコ-商品サービス流通税)、すなわち広大な自然の熱帯雨林を含んでいるコミュニティに州の税収入の一部を提供する法律でした。

それは1991年にパラナ州で最初に導入され、小規模な農場の労働者たちを支え、農地のために熱帯雨林を伐採しないように彼らにインセンティブを与えるものです。その結果、農家の人たちに損害を与えずに森林を守ることができます。以来15を超える州で同様の法律が作られましたが、それが本当に効果をあげているかという調査は行われていませんでした。

それでわたしは3つの州で調査を行いました。2つはEco-ICMSをすでに導入し、ひとつはしていない州でした。わたしは、法律を導入した州ではその公式な熱帯雨林の保全地域が増え、森林伐採の割合が減少していると結論づけました。と同時に、実際にある地域では天然の森林面積が増加していました。つまり、この法律はこうした成功をもたらしただけでなく、他にも多くのメリットを生んでいたのです。その一方で、この法律を導入していない州では森林破壊が増加していました。

次のステップは、まだEco-ICMSを導入していない州の政府にわたしの発見を発表することでした。この仕組みは、河川の汚染などの他の問題にも応用できます。そしてわたしは、Eco-ICMSのような経済手法は環境保護を推進する上での重要な手段となると信じています。経済と環境が同じチームを組むことになるのです。



Luis Pinto/UNEP/Topham

McPhoto/Still Pictures



### Rohit Pansare、ブラジル

小さな行動が、大きな変化につながります。かつて2003年ころ、わたしは友人とムンバイ市近くにある蝶が多く集まるYeoor湖をよく訪れていました。そこで多くのゴミを見かけたので、10人ほどの友人たちを集めてティーン自然クラブ(Teen Nature Club)を結成し、その一帯の清掃にとりかかりました。最終的には、わたしたちはみな10代から成長してしまっただけで、クラブ名は変更しなければなりません。

今では、ミッション・エンバイロ(Mission Enviro)という名前で環境保護に対する地域の意識向上のための運動をしています。わたしたちは捨てられていたあいさつ状、シリアル箱、そしてボール紙などで本のしおりを作り、エネルギーを消費するリサイクルよりリユース(=再利用)が勝ることを示すため、みんなに配布しています。またペンキ缶からろうそく立てを作って配布したり、人々に印刷ずみの紙の空白の裏側を使うよう働きかけたりしています。今では多くの人たちがものを捨てる前に、もう一度考えるようになってきています。

わたしたちは自らの最大のキャンペーンの中のひとつを、ヒンズー教の象の頭を持つ神様の名を取って「エコ・ガネーシャ・プロジェクト」と名付けました。インドのたくさんの祭りを祝う人たちは、しばしば祭りが終わったあとに何が残されるのか忘れていきます。たとえばマハラシュトラ州のとても有名なガナパティ(=Ganapati、群集の主)祭りの一部として、人々は焼石膏の偶像を湖や海に沈めます。焼石膏は水中で分解されないので、ゴミとして堆積して藻類や植物の成長を妨げます。ミッション・エンバイロは、お祭り騒ぎをする人たちに、代わりに粘土の像——分解する——を沈めるよう、そして発泡スチレン製ではなくリサイクルしたボール紙で作った飾りを使用するようキャンペーンをしています。

### HyunJin Jeon、韓国

ソウル市で炭素排出物が多い場所のトップ10のうち、5つが大学のキャンパスです。この驚くべき事実にはショックを受けて、TUNZA北東アジア青年環境ネットワーク会議(TUNZA-NEAYEN)——2008年9月にモンゴルで行われた——に派遣された韓国の代表団は、国中の大学でCO<sub>2</sub>ゼロエコ・キャンパスコンテストを開催することにしました。わたしたちは組織委員会を作って韓国環境省へ出向き、その支援と賞をもらいました。コンテストを開始すると、50の大学から100チーム以上の応募がありました。

ベスト10チームに選ばれると、自分たちのプロジェクトのための開発資金が贈られます。プロジェクトとしては、車の相乗りプロモーション、紙のリサイクルキャンペーン、食券によって食糧ゴミを減少するアイデア、植樹計画などがあり、課題はそれぞれ大学によって異なりますが、解決策の多くが地元で利用できる資源に基づいたものでした。

優勝賞金は湖西大学チームが獲得しましたが、このチームは大学の管理事務所の支援を得て全キャンパス・エコキャンペーンを展開し、コンピューター画面のスイッチを切ることや車の相乗りを奨励することなどを推進しました。コンテストは大成功を取めたので、わたしたちはこれを毎年実施し、学んだことを世界中の若者たちと共有する計画です。



Charlotte Thege/Das Fotoarchiv/Still Pictures

## 安全第一 Safety first

エリザベス・ガーマイ  
(Elizabeth Girmaye)

人間の健康と健全な地球環境とは、多くの点で関係があります。エチオピアで、わたしたちは性感染症(=Sexually Transmitted Diseases)と戦うキャンペーンを行っています。“より安全なセックスはより安全な環境から”というスローガンのもと、Timret Le Hiwot——わたしが勤務しているHIV/AIDS問題に取り組んでいるNGO——は、12月に環境保全キャンペーンを実施しました。500人を超すボランティア——若者たちを含む——は柱や壁から広告をはがし、ゴミを集め、樹を植え、そして公園や街路の生物種の詳細リストを補完するなどの手助けをしました。わたしたちは、誰もが環境活動家になり、HIV/AIDS対策の成功をめざすのと同じように、持続可能な環境開発のために努めるべきだと考えています。



Jatesh Bhalla/Flickr



**彼**らは悪夢の種。波間と銀幕の悪役である。ホオジロザメは確かに評判通り恐ろしく、意地の悪そうな人食いの形相をしている。彼らは世界最大の捕食魚であり、体重は3トン、体長は6メートルにまで育ち、その悪名高いあごは300本の歯を誇示している。

しかし本当は、ホオジロザメが人間に与える以上にはるかに大きな害を、人間は彼らに与えているのだ。ホオジロザメは食用として、さらには賞品のために捕獲されている。歯、骨、ヒレが目的だ。彼らはサメ侵入防止用の網にかかって死ぬ。また、彼らのえさとしての魚が人間に乱獲されて苦しんでいる。彼らは人間を攻撃して殺すが、その頻度は想像以上に少ない。死亡者は年に2人を下回る。

#### 海の変化 SEA CHANGE

マイク・ルッツェン MikeRutzen だけは、少なくともホオジロザメの側に立つ。以前は漁師だった彼の生活は、南アフリカ政府が1991年にサメを保護生物種に指定したあとに一変した。彼の住む村 Gansbaai 南アフリカの最先端近く、そして“サメの小道”として知られる帯状

の入り江に近い は、エコツーリズムがブームになった。彼は職業を変えてサメのサファリボートの船長になり、サメ観察のために観光客たちを海に連れ出し、えさでサメたちを船近くまで集めた。毎日ホオジロザメを観察しているうちに、マイクはサメに魅せられ、彼らと一緒に泳ぐことさえ学んでしまった。彼は今やこの大いに恐れられている生き物と一緒に泳ぐ時間のほうが、他のどの人間と泳ぐ時間よりも多くなり、サメのエキスパートとなった。同時に「ホオジロザメ専門ダイバー」として認定できる世界で唯一のインストラクターとなったのである。

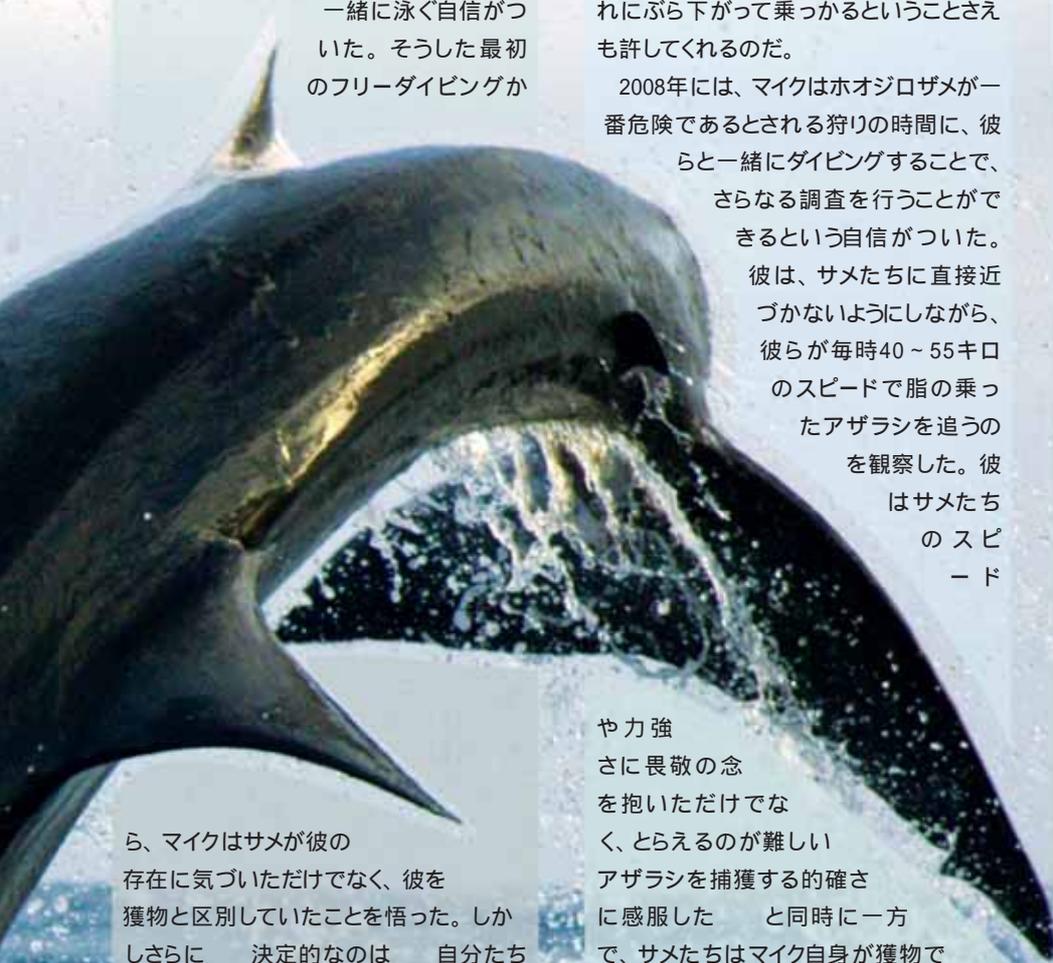
人々がサメを避ける傾向が、人間たちのサメに関する知識をせばめるため、学ぶことはたくさんあった。マイクの最初の観察結果は、ホオジロザメは食べ物を選び好みするというこれまでの常識を破ったものだった。彼は実験的に農場の家畜から採血した180リットルの血を水中に投じてみた

が、サメたちはまったく狩りモードにはならず、むしろさっぱりと言ってよいほど興味を示さなかった。彼の結論としては、サメたちはどんな肉でも食べるのではなく、獲物を選んでいて、人々を襲うのがまれなことから考えて、人間を食べることへの興味はほとんどないと思えるのだ。

1990年代の半ばにザリガニを研究するために泳いでいる時、マイクは思いがけずホオジロサメと何度か遭遇し、彼らに対してなぜ自分たち人間は事実無根の恐れを抱くのだろうと疑問に思った。彼にとっては、サメたちが自分になんら敵意を示さず、むしろ彼に会って驚いているように見えたの

# ジヨーズを 救え! Save Jaws!

だ。このことから　そして数年にわたってボートや水中の檻の中から観察した経験から　彼は防護設備なしでサメたちと一緒に泳ぐ自信がついた。そうした最初のフリーダイビングか



ら、マイクはサメが彼の存在に気づいただけでなく、彼を獲物と区別していたことを悟った。しかしさらに　決定的なのは　自分たちの意志を表現しながら、彼の身体の動きや体位に知的な反応を見せたことだ。彼はサメたちが攻撃の姿勢を取ったり、歯をギラギラさせて疑いもない敵意のシグナルを送ったりするかかわら、用心深いアプローチをすることで人間に好奇心を示しているのだと知った。やがて、彼はサメたちと一緒に泳ぐには、サメのように考えなければならないと実感した。「わたしが水中に潜る時には」と、彼はTUNZAに語った。「サメたちにはわたしのことを単なる仲間の肉食動物だと思ってほしい。」

#### 遊びの時間 PLAYTIME

マイクのお気に入りのやり方は、遊びを誘いかけのように自分自身の身体をボールのように丸めて見せることだ。もし、サメが好奇心から試してみる気になれば、彼はサメが大胆になりすぎる前に身体を伸ばして自分の守備範囲を宣言する。「この動物はとても詮索好きだ」と彼は言う。「サメたちには腹を立てさせないようにして、ただ好奇心を持続させてやることだ。」この種の遊び心いっぱいのダンスで、マイクは多くのホオジロザメの警戒を解き、

彼自身を安全であると認識させ、前例のないほどの接近を実現させた。さらにサメたちは、マイクに鼻をさわらせたり、背びれにぶら下がって乗っかるということさえも許してくれるのだ。

2008年には、マイクはホオジロザメが一番危険であるとされる狩りの時間に、彼らと一緒にダイビングすることで、

さらなる調査を行うことができるという自信がついた。

彼は、サメたちに直接近づかないようにしながら、彼らが毎時40～55キロのスピードで脂の乗ったアザラシを追うの

を観察した。彼

はサメたちのスピード

や力強さに畏敬の念を抱いただけでなく、とらえるのが難しいアザラシを捕獲する確さに感服した　と同時に一方で、サメたちはマイク自身が獲物ではないことを認識していた。

#### ギャップを埋める FILLING GAPS

現在、マイクは自分でサメダイビング会社を経営し、それを通じてサメの保全を推進し、科学調査に貢献している。ホオジロザメの移住パターンを衛星経由で追跡できるように、自発的に彼らに追跡装置付きの標識を着ける仕事もしている。彼はまた、サメのDNAサンプルを抽出し、人間のサメに関する知識における多くのギャップを埋める手助けをしているたとえば彼ら個体がお互いにどう違うのかなどである。しかし海洋には現在どのくらいの数のサメが生息しているのか、彼らはどこへ移動して産卵するのか、そしてどのくらい長く生きるのかなど、まだまだ多くの謎が残されている。

「わたしは危険を十分に承知している。しかしサメの保全を支援する機会は、その価値のあるものだ」と信じている」と彼は言う。計算では、世界で最もサメの生息数が多い南アフリカの海岸沖でさえ、その数が300を超えて残っていることはないという。

「消えつつあるのは繁殖できるサメだ」とマイクは語る。彼の説明では、南アフリカで最近見かけることができる平均的なサメは全長3メートルほどだ。しかし繁殖できるよう成熟するには、オスは少なくとも3.5メートル、メスは4メートルにまで成長する必要がある。彼が恐れているのは、サメが世界中で“機能的に絶滅する”ことだ。それは、サメたちが海洋の食物連鎖の頂点でもはや捕食動物としての役目をじゅうぶんに果たせなくなることを意味する。たとえサメが保護されているとしても、南アフリカの水域では、自己防衛という名のもとに合法的に捕獲され殺される可能性があるのだ。

#### 有名な命しらず

##### CELEBRITY DAREDEVIL

マイクが命しらずなダイバーとして、何らかの著名人のステータスを得たとしても不思議はない。彼は世間の注目を宣伝として活用し、サメは怖いものではなく保護するに値する注目すべき動物だと訴えるだろう。「必要なものは、これらの動物を保全するための真にバランスの取れた生態系システムだ」と彼は言う。「われわれはホオジロザメを殺すのを止める必要がある。そしてもう一方では、同時に彼らの食糧源を保ってやるのだ」。その間に、マイクは人々にサメのお土産品を買ったりサメの肉を食べたりしないよう促す。「生きたホオジロザメの需要を作り出すことができれば」と彼は語る。「われわれは次の世代のために、このすばらしい生き物を引き継ぐことができるのだ。」



流行遅れに見えるかもしれないが、われわれの祖父母の簡素な技術がしだいに今日的な意味を帯びるようになってきている。TUNZAは4カ国からの7人に、そういった例について語ってもらった。

## Claire Hastings (カナダ)

わたしは台所の机で、家族の歴史ともいえるものをひも解いています。といっても学校の宿題というわけではありません——冬着が欲しいだけなのです。実は、わたしは50年以上前に祖母が祖父のために編んだセーターをほどこしているところです。その毛糸はバンクーバー近くの農場で当時放牧されていた羊の毛をつむぎ、手で梳いたものです。ところどころ擦れて薄くなっているものの、羊毛自体はまだ弾力を失っていません。

わたしは編物ができます。2本の先のとがった編み棒と毛糸を使って、セーター、ソックス、手袋、帽子を作るのです。手編みは何世紀にもわたって行われており、編む人はトルコからアルゼンチン、スカンジナビアから中国、そしてトロントにいるわたしに至るまで、あらゆる所において、今わたしのまわりには解いたセーターや巻きかけの毛糸玉が転がっています。

編みものが世界を救うわけではありませんが、そのお手伝いにはなります。毛糸の再利用で消費を減らすのです。オーガニックの羊毛を購入することで、農場や工場での農薬の使用を減らすことができます。そして友人や家族への贈り物を作り出す編み手たちは、自



Claire Hastings

分たちの地域の低炭素産業を担っているとも言えます。

わたしは祖母がいてねいに編み上げた目を解きながら、この毛糸で何を編もうかと考えています。多分、わたしに快適な暖かさを感じさせてくれるフィッシャーマンズセーター、それともおそろいの手袋とスカーフ、あるいは1杯のお茶とともにくるまってあたたかくできる毛布でしょうか。

## Ramanathan Thurairajoo (シンガポール)

わたしの祖父、父、そして一番上の伯母は、インドで生まれインドに住んでいたが、今はこのシンガポールに定住している。彼らがこ



R Thurairajoo/NYAA GAHA Exco

こへ来た時、アパートのとなりの土地の一部を買い、家庭菜園を作って野菜やハーブ——インドミント、マンゴー、パンダンの葉、ヘナの木、トゥラシ(=カミメボウキ)、レモングラス、チリ、その他いろいろ——を育てた。みんながインドの繊細な味や薬草を必要としていたのだった。

両親がともに働きに出ているので、われわれ兄弟が幼いあいだは彼らがベビーシッターをしてくれた。われわれは各自シャベルと長ぐつを持ち、アパートの外の小鉢に苗木や若い木を植え、それらの根がじゅうぶん強くなったあとで庭に植え替えた。

家族は今では市内に住んでいるため狭いスペースしか利用できないが、それでも鉢植えの野菜やハーブを育てている。わたしの父も苗木を育てては人にあげている。彼のお気に入りにはニームの木だ。水ぼうそうや糖尿病の人たちにその葉を配るが、さらにその木の存在が人々を病気から守ってくれると信じ、どこへ行ってもその木を植えるようわたしたちに教えてくれた。

こうしたことをすべて教えてもらえたのは有難いことだ。わたしは何かを植えたり、友人に若い苗木をプレゼントしたりする時、いつも祖父母を身近に感じる。わたしはこの知識を将来の世代に伝えるつもりだ。そうすることでわたしたちは自然に帰ることができるのだ。

## Carlos Bartesaghi Koc (ペルー)

チューニョ(chuño)——ペルーとボリビアのコミュニティ、Quechua と Aymaraで作られている冷凍乾燥したポテト製品——は、数年間保存ができる。

数世紀も昔のレシピを使って、製造に5日間かかる。まず、霜に強い品種のじゃがいもを地面の上に並べ、わらで覆い、アンデス山脈のAltiplano高原特有の寒気にさらしてそのまま3晩ほど冷凍する。そしてじゃがいもは昼間に強烈な山の日射しを浴びて乾燥され、さらに足で踏みつけて余分な水分をしぼり出される。それから再び冷凍され、チューニョができて上がる。

わたしはチューニョ——自国料理の主食——を少なくとも週に2回食べている。ふつう羊肉、キノア、じゃがいも、小麦、そして米などで作られたcaldo blancoと呼ばれるスープの中に入れる。他のレシピでは、ゆでるかフライにしたチューニョもあり、さらには粉にした



C Bartesaghi Koc

チューニョさえある。したがってこの古来の技法は、特に高原地帯で、雇用を生む手段として、さらに美食家の食材として今でも受け継がれている。

## Liza Malm (アメリカ合衆国)

わたしは少なくとも25年のあいだ堆肥作りを続け、生分解可能な生ゴミを土に戻すよう子供たちにすすめるのを楽しんでいます。このアイデアは自然界から来たものです。木から落ちた葉は、雨や雪で湿らされて腐敗が促進されます。その有機成分はなくなってしまうのではなく、分解されて土壤中に吸収され、引き換えに木々の栄養になり、生態系の

サイクルが完結するのです。

堆肥を作るには多くのやり方があり、それを学ぶには時間がかかります。けれども、もしあなたが庭園を持っているなら、初心者向けの簡単な——そして古来の——方法があります。まず、野菜や果物のくずをふた付きのバケツに入れて取っておきます。1立方メートルほどの穴を掘り、その中にバケツをあけます。土でじゅうぶん覆って、さらに生ゴ



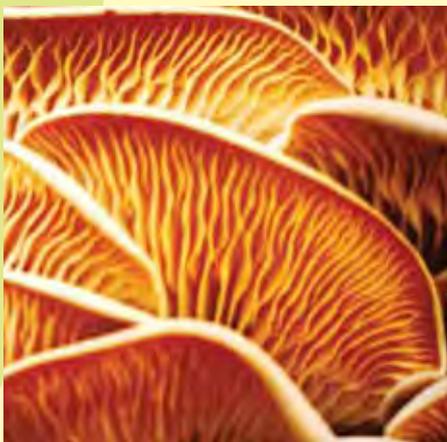
Liza Malm

ミを加えます。穴に誰かが落ちないように何枚かの板でふたをします。穴が一杯になったら水をじゅうぶんかけて数ヶ月放置します。そうすれば、そこに植えたものは何でも本当によく育つようになります。

あなたが得る報酬は、もちろん庭園で目に入る結果そのものですが、あなたが土壌を豊かにしたことを忘れないでください。それに使ったものは、もし利用しなかったらゴミ廃棄場にトラックで運ばれ、メタンを放出し、地球温暖化を加速したかもしれないのです。

### Sara Svensson (スウェーデン)

夏の終わりに、わたしは長ぐつをはき、かごを手にひんやりとした森の中に入って行きます。わたしの探しものは、キノコの中で最もおいしいゴールデン・シャントレルを見つけることで成果をあげます。数百もの金色の斑点が、地面からはほえみ返してきます。そしてわたしはしゃがみこんで、摘み始めるのです。



PS Giridhar/UNEP/Topham

地球はあなたを必要としている!

スウェーデンでは、キノコ狩りをよくやります。秋になると人々は週末を戸外で過ごすことを楽しみ、これらの無料の珍味かごとともに帰宅します。今でこそわたしたちはそれを余暇に行いますが、そう遠くない昔には、このような野生の食糧を集めることは家族の生活を助けることでした。人々は何のキノコが食べられて、どれが毒なのかを知っており、多くのレシピや、キノコを乾燥させて冬のあいだ保存する方法を知っていました。

悲しいことに、こうした知識の多くが忘れ去られつつあります。幸い、両親と祖父母はそれをわたしに伝えてくれました。わたしたちが森に足を踏み入れる時、彼らはどのキノコを取り、どれを取らずにおくのかを教えてくださいました。キノコが母なる地球からの贈り物であることを知り、わたしたちはお返しに自然を守り、保全する必要があることを学んだのです。

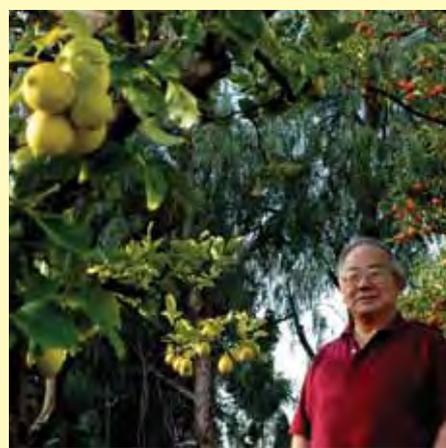
今では友人とわたしは、若い人たちをキノコ狩りに誘い、キノコを摘んだり自然について学んだりしながら、キノコ狩りの楽しさを伝えるようにしています。地元、そして旬の食材を食べること——地球を助ける、しかもおいしいやり方——が、再び流行になりつつあります。

### Mark Eng (アメリカ合衆国)

わたしは中国の広東省泰山にある農村で育った。そこでは——わたしの祖父の時代には——庭園を所有することがステイタス・シンボルだった。また、所有者の家族がどれだけの土地を余暇に残しておくことができるかで、庭園の大きさが決まっていた。しかし祖父はそこを果樹園として耕し、自分の死後、年下の妻が収入を得られるように計らった。彼は2.5ヘクタールの土地に100本を超す果樹——グアバ、グレープフルーツ、ザクロ、ブドウ、モモ、タンジェリン、そしてパイナップル——を植えた。

わたしは子供時代、その果樹園で多くの幸せな時間を過ごした。だから南カリフォルニアに移ったあと、家の庭——古いオレンジの木立ちが残っていた土地——にまず果樹を植えたいと思ったのは、自然な成り行きだった。過去35年にわたって、わたしはタンジェリン、レモン、キンカン、ビワ、ザクロ、オレンジ、2種類のグアバ、日本柿、モモ、グレープフルーツ、ナツメヤシ、そして3種類のリンゴなどを植えた。

果樹の手入れは簡単で楽しく、みんなに新鮮な果実を、また二酸化炭素を吸収することで新鮮な大気を与えてくれる。そして30本以上の木々や茂みに囲まれて暮らすわたしは、いまだスモッグを経験したことがない。



Karen Eng

### Elizabeth Akinyi Odhiambo (ケニア)

わたしの両親はケニアのKitaleに農園を持っています。そこでわたしたちはトウモロコシ、トマト、タマネギ、スイートポテト、その他の野菜類を栽培し、乳牛や鶏を食べるため、そして売るために育てています。

成長するにつれ、わたしは動物たちの世話を手伝いました。鶏にトウモロコシ、小麦、ugali (=トウモロコシやキャッサバの粉を練って蒸した、ケニアの代表的な食べもの)、穀物の粉末、そして台所から出るくずなどを与え、いつ鶏が病気なのか、繁殖する準備ができているか、卵を産むかを学びました。

牛を飼育するのはさらに難しいことです。牛が毎日きちんと食べることを確実にこなさなければなりません。彼らのあとを追ひ、良い緑草のある場所を見つけるのが難しく、特に乾期には苦勞します。時には20キロ以上も歩かねばなりませんでした。乳牛はミルクを出すだけ



Biosphoto/J-L & F Ziegler/Still Pictures

ではありません。彼らのふんはとても良い肥料になりますし、わたしたちはその皮から衣服を作ります。

わたしは、小規模であっても動物たちを飼いたいと考えています。それがたとえきつい仕事であっても、とても多くの点で彼らはわたしたちに報いてくれるからです。

# エネルギーの 7不思議

# 7 energy wonders

エネルギーたっぷりな、ぬるぬる  
Energetic slime

ぬるぬるとした浮き泡を当てにしてみるのはどうだろう？ 藻類——池や湖、そして海で、しばしば水面のところどころを覆っている緑色の物体——が、環境に最もやさしいバイオ燃料源のひとつとして有望視されている。それは驚くほど早く成長し、一日に何回も重量を倍増させ、さらには1ヘクタールあたり約1万4千リットルのバイオ燃料を作り出すことができる。これは菜種が供給できる燃料の70倍以上に相当する。農地を奪い合うこともせず、成長するにつれ汚染された水を浄化し、自分の重さの3倍にもあたる二酸化炭素を吸収する。それはまた、他のバイオ燃料に比べて、その重量あたりのエネルギー量をより多く含んでいる。だから他のバイオ燃料とは違って、航空機の燃料としても利用することができる。実際に、ニュージーランド航空では、すでにそれをジェット燃料に混ぜ込んで使用するテストに成功している。



Wildlife/D Harms/Still Pictures

## 炭素の回収 Capturing carbon



UNEP/Topham

専門家たちの考えでは、石油や天然ガスの産出はそのピークに達しつつあり、まもなく減少し始めるが、世界中に石炭ははまだ数百年分残されているという。そしてそれが目の前にあるがゆえに燃やされやすくなり、気候に莫大なダメージを与えることになる。現在石炭を利用する発電所は、世界中の二酸化炭素排出量の4分の1にあたる排出の責任をおっている。解決法としては、炭素の除去——燃やす以前の石炭から、もしくは燃やしたあとの排出物から——を目的とした炭素の回収と貯留がある。その後、除去された炭素は地下や海底へ貯留されるだろう。たとえば枯渇した油田に残されている空洞を、貯留に利用することが考えられる。欧州連合(EU)は、このための本格的なプロジェクトが数年以内に少なくとも1ダースは発足することを強く望んでいる。

## 発電タワー Power towers

サハラ砂漠や地中海周辺にたくさんの反射鏡を設置することで、全ヨーロッパの電力需要をまかなうことが可能になる日が来るかもしれない。それらの反射鏡は多くの太陽発電所の重要な戦力となるはずで、スペインのセビリア市郊外のアンダルシア砂漠では、その第1号機がすでに稼動を開始している。整列した反射鏡に集められた太陽光線が、タワーの頂上に設置されたボイラーに合わせて焦点を結び、1000℃以上の高温を作り出す。そこで生じた水蒸気がタービンを回して発電するのだ。スペインでは、ほかにもいくつか同様の発電所が建設中だ。カリフォルニアでもモハビ砂漠に3基の大規模な太陽発電タワーが建設されており、州の莫大な電力需要の20%をまかなう予定であり、その他、南米やイスラエルでもいくつか同様のプロジェクトの実行が正式に発表されている。



Solúcar PS10/Solarweb

## 麻の家 Grass house



Lime Technology Ltd

家建てる材料を自分で育てることで、地球をクールダウンする手伝いができる。その秘訣は、世界で竹の次に成長の早い麻を育てることだ。麻はたった4ヶ月で収穫することができ、生育中も大気中の二酸化炭素を吸収してくれる。1ヘクタールの広さがあれば、1軒の家建てるのにじゅうぶんな収穫量が確保できる。石灰と混ぜ合わせてヘンプクリートを作ると、コンクリートの代わりになる良い断熱材ができ、エネルギー効率の良い家建てることできる。1軒の家を作るために麻を育てることは、最新の断熱効率の基準を満たすようアップグレードした家が削減できる量の50倍もの二酸化炭素を回収できるという計算になる。これに比べて、セメントを1トン製造するには、1トンの二酸化炭素が放出されるため、それだけで世界の二酸化炭素排出量の3%を占めてしまうのだ。

できすぎた話に聞こえるかもしれない。だが、二酸化炭素やその他の汚染物質の排出を削減しながら、自動車の価格も引き下げることができるというのだ。デンマーク、イスラエル、ハワイ、そしてサンフランシスコでは、電気自動車を対象として、こうした計画にいっせいに乗り出している。これは元インターネット関連企業家シア・アガシ (Shia Agassi) 氏の独創的な考案で、携帯電話のように電気自動車を売り込もうという方法だ。自動車を携帯電話本体のように大幅に値引きしたり、あるいは時には無料で供給する。一方で、自動車の所有者たちは、時間ではなく走行距離に応じた支払い契約を結ぶ。そうすることで、この所有者たちは無数の場所で——たとえば駐車場や道沿いに停車しながら——バッテリーに充電したり、ガソリンスタンドでバッテリーを交換したりできるのだ。さらにその電力自体がクリーンな電源から得られていれば、言うことはないだろう。

## モバイル自動車 Mobile motoring



Ze-0/www.nicecarcompany.co.uk

## 屋根の上の革命 Rooftop revolution



Martin Bond/Still Pictures

だんだんと人々の屋根を飾り始めている未来的な太陽電池パネルは、まもなく時代遅れの技術になってしまうかもしれない。これらパネルの使用は、この10年以上をかけて、2年ごとに倍増してきた。しかしこれらは、太陽光線を直接電気に変換させるさらにめざましい技術が開発されつつあることから、古くさいものになってしまう危険にさらされている。新しい“薄型フィルム”の太陽電池は、従来型と比べて17分の1の薄さになり、製造コストもずっと安い。そしてこのフィルムは来年までに、市場の5分の1を占めるだろうと予想されている。しかし、さらにすばらしい開発がいくつか進行中だ——たとえばプラスチック材、窓ガラス、さらには塗料までもが、みな太陽電気を発電するというものである。つまりは屋根の上のパネルからだけでなく、近い将来、建物全体が太陽光を受けて電力を供給できるようになるかもしれない。

次に電球を取り替えるのは、今から何世代あとになるだろうか？ この質問は、発光ダイオード (LED) の開発がさらに進むにつれて的を射たものになるだろう。すでに入手可能なLEDでさえ20年の寿命、そして60年もの寿命を持つものも生産されるようになって考えられている。さらに重要なのは、LEDは現在の省エネ型電球の2倍、そして昔からある白熱灯に比べると10倍も、発光の効率がよいということだ。LEDは、半導体材料中の電子の運動で発光するからである。だから昔からの電球で、エネルギーの98%がフィラメントを加熱するのに消費されるのに対し、エネルギーの大部分を光を生成するために利用できる。世界のエネルギー消費量の19%を照明が占めているのだから、この効率性は決して小さなものではない。

## 電球の仕事 Light work



www.gbl-led.com



# 「雑木林とせせらぎのあるま

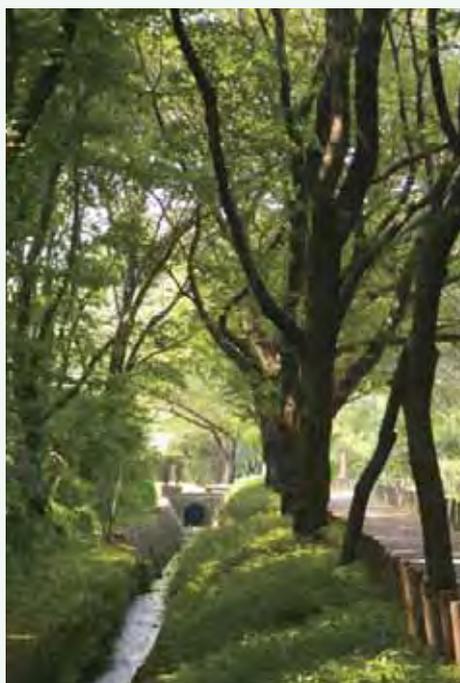


新座市長 須田 健治

## はじめに

新座市は、埼玉県の最南端にあり、東京都心から約25km圏に位置し、面積は22.8km<sup>2</sup>、人口は16万人を有しています。

交通は、市の中央を東西にJR武蔵野線が、さらに池袋などの都心方面から郊外に延びる私鉄や道路が走り、都心への交通至便の地となっています。



野火止用水

市の特徴としては、首都近郊という立地条件ながら、武蔵野の面影を残す雑木林が数多く残されており、特に市の中央に位置する臨濟宗の名利

「平林寺」の広大な境内林43ヘクタールは、文化財保護法による国指定天然記念物になっています。市の中央部を流れる野火止用水は、川越藩主であった松平伊豆守信綱が開削し、現在、市の重要な歴史的文化遺産となっています。

また、市内には、故手塚治虫さんの日本を代表する人気漫画「鉄腕アトム」の制作スタジオがあることから、アトムくんには特別住民として、市の祭りや行事の際には、10万馬力のパワーで、「元気の出るまちづくり」、「観光都市づくりにいざづくり」に参加・応援してもらっています。

## 地球温暖化防止に向けて

現在、地球温暖化防止の対策が国内外を問わず行われています。市では、温室効果ガスの削減を計画的に取り組むため策定した「新座市地球温暖化対策地域推進計画」に基づき、市庁舎及び全小中学校への「緑のカーテン」の設置や住宅用太陽光発電システム設置補助など、地球温暖化防止に向けて、さまざまな事業を展開しています。

また、ケニアのワンガリ・マータイ元環境副大臣が提唱した、限りある資源の有効活用と地球環境の保護を訴える「もったいない」を世界共通語にしようという考え方に賛同し、市民・事業者・市が一丸になり「もったいない運動」を展開しています。

この「もったいない運動」の取組としては、年2回春と秋に開催している「リサイクルマーケット」や、マイバッグの啓発イベントとして春に実施している「エコ・ショッピング」、夏にはお風呂の残り湯等を利用して打ち水を行う「打ち水大作戦」、冬には環境に優しい生活スタイルに取り組む「エコライフデー」などを市民の皆様と一緒にを行っています。

なお、市民の皆様のご協力により、市民一人当たりのゴミ量は埼玉県下最低量となっています。



すぐそこ新座花まつり

# 「新座」をめざして

## （新座市の 環境への取り組み）

### 市民と行政の連帯と協働による環境にやさしいまちづくり

新座市では、「まちづくりは人づくり～つなげようコミュニティの輪 ひろげようボランティアの心～」のスローガンのもと、ボランティア活動が活発に行われており、現在、540の団体の皆様にボランティア活動に取り組んでいただいています。

環境の分野でも、多くのボランティアの皆様に、清掃美化活動、雑木林の維持管理や環境啓発活動など、様々な環境保全活動に取り組んでいただいています。

市の歴史的文化遺産である野火止用水では、「野火止用水クリーンキャンペーン」と銘打った大規模な清掃活動を年2回実施していますが、地元小・中学生をはじめ非常に多くの市民の皆様に参加していただいています。

また、平成20年6月には、市内の湧水「妙音沢」が、湧水周辺の自然環境に加え、地域住民などのボランティアによる持続的な保全活動が評価され、環境省の「平成の名水百選」に選定されています。



妙音沢(平成の名水百選)

### 雑木林とせせらぎのあるまちづくり ～環境から観光づくり～

新座市では、平成16年に地域再生計画の国の認定を受け、首都圏近郊ながらも豊かな自然に恵まれた立地条件を活かして、「観光都市にいざづくり」の実現に向け取り組んでいます。

武蔵野の面影を色濃く残す平林寺や野火止用水などの歴史的文化遺産に加え、季節に合わせて菜の花やひまわりを植えて「すぐそこ新座花まつり」を開催したり、たけのこ掘り体験やシイタケ栽培、カブトムシやホタルなど自然とのふれあいをテーマにした新座版グリーンツーリズム事業を展開しています。

このような事業を通じて、新座市内全域をフィールドミュージアム、「屋根のない博物館」として市民や来訪者の皆様にさまざまな発見や体験をしていただきたいと考えています。

都心から近く、週末ごとに気軽に出かけられる新座の地の利を活かし、大切な武蔵野の自然を保全し、また自然資源や歴史的文化資産を活用して「住んでよし、訪れてよし」の観光都市にいざづくりをめざしてまいります。



緑のカーテン(新座市役所本庁舎)



打ち水大作戦

# フジテレビの環境への取り組み

フジテレビは、幅広い分野で社会的責任を果たすため、2006年にCSR推進室を新設し、全社横断的組織「CSR推進会議」（委員長：豊田皓代表取締役社長）を発足して、放送業界初の本格的なCSR推進体制を整えました。2007年には、フジテレビの環境行動計画となる「お台場議定書 2007」を策定し、環境活動の基本姿勢を明確にしました。メディア企業であるフジテレビは、多くの方々と地球環境の保全や身近なエコ活動などについて、一緒に「考え」「行動し」「確かめる」ことを呼びかけています。そのため、番組等を通じて身近な環境から地球規模の環境まで様々な現状や課題さらに環境関連の活動等の情報提供を行っています。

## フジテレビ環境行動計画 お台場議定書 2007 -今、はじめよう！-

### 1. 一緒にエコ考えよう

フジテレビは、テレビ番組や各種のイベントなどメディアを通じて地球環境の保全や身近なエコ活動について情報の提供を行い、地球環境の重要性、緊急性について一緒に考えていきます。

### 2. 一緒にエコしよう

フジテレビは、日々の企業活動で環境負荷の小さな放送設備、機材の導入、ごみ分別の徹底、リサイクルの推進、グリーン調達促進やチーム・マイナス6%に参画するなど省エネルギー、省資源などのエコ活動を一緒に行動していきます。

### 3. 一緒にエコ確かめよう

フジテレビは、温暖化ガス削減やごみ分別などについて、目標を定めて活動し、その結果を公表します。さらに、世界の環境活動などの情報を提供し、地球環境保全の成果と一緒に確認するとともに、継続してエコ活動を進めていきます。

## ● 放送番組における環境活動

「スーパーニュース」を始めとする報道番組では、環境現状報告と共に、環境改善への解決策や新技術、低炭素社会実現に向けた日本の課題など“一歩先”の環境企画を放送しています。情報番組「めざましテレビ」では、環境省の「チーム・マイナス6%」や、農林水産省の「FOOD ACTION JAPAN」と連動した企画を放送。バラエティ番組でも環境企画を取り上げています。「ネオコラ!〜東京環境会議〜」は、環境問題に関するコントを中心に、アニメーション、インタビュー、音楽など様々なコーナーを集めたエコ・コメディで、笑いながら環境のことについて考えてもらう企画です。



“ダジャレでエコメッセージを出すエコ五郎”  
「ネオコラ!〜東京環境会議〜」より

## ● 企業活動における環境活動

フジテレビは企業市民として、温室効果ガス排出量の削減に計画的に取り組んでいます。「チーム・マイナス6%」キャンペーンに参加して、クールビズやウォームビズを実施し、建築設備の省エネルギー対策を推進しています。また①ごみ分別、②封筒・手提げ袋、文房具用品の使いまわし、③スイッチオフによる電気使用量の削減・CO2削減の3つを柱とした『地球環境改善のための3本の矢キャンペーン』を実施しています。

## ● CSR推進会議プロジェクトチームによる環境活動

プロジェクトチームの活動として、企業として排出するCO<sub>2</sub>をオフセットする手法を検討し、フジテレビ製作の映画1作品あたり100,000kW/hのグリーン電力証書システムへの参加を決定。2008年度は全7作品、2009年度は全8作品分のグリーン電力証書を購入しました。「フジテレビで発売する商品にフジテレビでできるエコを取り入れよう」と、販売DVDのパッケージにエコ素材を検討。細かく裁断した紙を原材料にしたバイオマスプラスチック製品「MAPKA」の製造・販売会社に依頼して、フジテレビ社内のシュレッターごみ（裁断紙）を利用したDVDのトレイを作り、実際にそのトレイを使った「ウゴウゴ・ルーガ DVD地球に[たぶん]優しいエコシリーズ全5巻」を発売しました。

フジテレビグッズのショップで配布するショッピングバッグ（レジ袋）にエコ素材を検討。非食用の古古米を原材料にしたバイオプラスチック「アグリウッド」を利用した製品「ライスポリ」を採用。約1万枚を羽田、東京駅、海老名、箱根園、お台場のフジテレビショップで配布しました。更に、フジテレビのCSR活動を支えるために結成されたアナウンサー集団『エコアナ』が、環境イベントの司会や環境絵本朗読会の実施など、『エコアナ』環境活動を積極的に展開しています。



MAPKAの素材をトレイに使用した  
「ウゴウゴ・ルーガ DVD地球に[たぶん]優しいエコシリーズ全5巻」



（パッケージ）



映画「ホットラケの島」  
©2009フジテレビジョン/Production.I.G./電通



「ライスポリ」のバッグ

# 持続可能な社会をめざして

私たちは  UNEP (国連環境計画) の活動をサポートします。

**Aiming at sustainable society**

We support the work of  UNEP (United Nations Environment Programme)



(特別協賛サポーター) 五十音順

**Canon** キヤノン株式会社

**KIRIN** キリンビール株式会社

**SAKATA INX** サカタインクス株式会社  
Visual Communication Technology

 **杉田エース株式会社**

 **T&D** T&D保険グループ  
 太陽生命  **DAIKO** 大同生命  T&Dフィナンシャル生命

 **TBS**

**TOSHIBA** 株式会社 東芝

 **JAL** 日本航空

**JPR** 日本パレットレンタル株式会社

 **Bayer** バイエルホールディング株式会社

 **フジテレビ**

**FUJIFILM** 富士フイルム株式会社

**BRIDGESTONE** 株式会社ブリヂストン

 **毎日新聞** 

 **MITSUBISHI PAPER MILLS LIMITED** 三菱製紙株式会社

 **三菱東京UFJ銀行**  
MUFG

(環境関連協賛サポーター) 五十音順

 **会社 エッチアールディ**

 **HANDY TECHNO** ハンディテクノ株式会社

 **株式会社ランダムハウス講談社**



# 世界環境デーを祝って Celebrating World Environment Day



**啓** 発活動や祝賀のためのインターナショナル・デーは、カレンダー上に散らばっている——が、世界規模で開催されるものはほとんどない。しかしながら世界環境デー(WED)は知名度の高いイベントへと成長し、地球全体で数百万の人たちが祝い、参加者は毎年増加している。

WEDが始まったのは1972年6月、ストックホルムでの国連人間環境会議が引き金となってUNEPが創設され、環境問題に取り組むための国際的な基盤が作られたのがきっかけだ。そして6月5日——会議の開始記念日——が、世界環境デーとして設定された。

最初のWEDは1974年で、“かけがえのない地球 (Only One Earth)”というテーマのもと、世界がともに持続可能な開発のために努めるよう働きかけた。その時以来、UNEPはこのメッセージをさまざまな課題のある分野で強調してきた。たとえば、オゾン層(1977)、地下水(1981)、砂漠化(1984)、海洋(1998)、生物多様性(2001)、そして都市(2005)などだ。1987年以来、その主要イベントは毎年異なる国の都市が主催するようになった。

今年の祝典の中心地は、その力強い環境宣言が評価されて、

1990年に主催をしたメキシコ市に戻った。各国政府代表団、科学者、企業家、そして著名人たちがこの首都に集まり、記念日を盛り上げ、テーマの“地球はあなたを必要としている——気候変動と戦うためにUN(国連)と一体になって”——にちなんだ講演やセミナーに出席する。各国政府はこの機会にいくつかの国際環境協定に署名し、2005年のWEDで60を超す主要都市の市長たちが持続可能な都市開発に努める公約をしたように、いくつかの決議事項が採択されることになるだろう。

例年のように、世界中で数百万の人たちが、それぞれ興味深い独創的なやり方でこのイベントを祝うことだろう。たとえば2006年のアルジェリアでは、市民の祝賀イベントでWED熱気球が飛ばされたり、2003年には、都会育ちのバングラディシュの若者たちが田舎のコミュニティを訪問したりしたことがあった。

メキシコのフェリペ・カルデロン大統領は、この日を人類が直面している難題——気候変動を含めた——についてじっくりと考える日にすると同時に、解決に向けた行動と公約の日としてほしいと述べた。

